2021（R3）年度

事業報告書

BOWA SUMIRE

社会福祉法人　ボワ・すみれ福祉会

2022/04/16 12:17
保存場所

目次

法人理念等 3

役員名簿 4

理事会・評議員会の開催状況 5

監事監査・苦情解決第三者委員会開催状況 8

法人本部経営企画部門 9

法人本部事務部門 12

花の家（生活介護） 14

クッカ広場（就労継続支援Ｂ型） 22

かけはし（相談支援） 26

医務部門 27

栄養部門 28

運営部門 32

花の郷（生活介護） 44

支援部門 44

生産活動部門 51

医務部門 55

2022/04/16 14:06
保存場所

栄養部門 57

委員会年間総括 59

ボワ・アルモニー（就労継続支援Ｂ型） 69

ボワ・アルモニー（生活介護） 71

栄養部門 73

業務分担 75

居住支援部（ボワ・ミニヨン・クレール・あかね・ひなた・はるかぜ） 83

ボワ・ミニヨン（共同生活援助） 83

であい（短期入所） 86

児童支援部 87

ボワ・コンサー（児童発達支援・放課後等デイサービス） 93

ボワ・フルール（放課後等デイサービス） 95

ボワ・エール（放課後等デイサービス） 97

2022/04/16 14:06
保存場所

社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会

理念

「一人ひとりの命を大切にする人権尊重の理念に基づいた利用者支援を行い、誰もが豊かに暮らせる地域社会をつくります」

経営姿勢

・職員を大切にする会社を目指します
法人は、元気に笑顔で仕事ができるように、職員を大切にします。

・質の高い利用者支援を提供します
法人が目指す支援は、ご利用者が望む支援を質の高さを常に意識して提供していきます。

・新たな事業に挑戦し多様な支援を提供します
法人はニーズに応じて新しい事業や多様な支援を提供していきます。

・法人は職員と共に成長します
法人＝職員の考えに基づき、職員の成長なくして法人の成長はない、人材育成の取り組みを行っていきます。

行動指針

・私たちは、常に熱い心と冷静な姿勢で仕事に取り組みます
仕事に対して熱意を持ち、冷静沈着な姿勢で仕事に取り組み成果を出していきます。

・私たちは、より高度な倫理観を持ち社会的責任を自覚し誠実な行動をします
支援者として常にご利用者の人権と自己決定を尊重し、社会的責任、役割を理解し、社会福祉法人の職員としてふさわしい行動をします。

・私たちは、法人職員として夢と希望をもって行動します
自分たちの職場を大切に、全職員自らが夢と希望を持ちご利用者支援の仕事をします。

社会福祉法人ボワ・すみれ福祉会
理事・監事・評議員名簿

２０２１年６月～２０２３年６月
定時評議員会終結時、任期２年

		氏名	職業
1	理事	田部井眞	ボワ・すみれ福祉会理事長
2	理事	鈴木一典	サンシルバー町田事務長
3	理事	守屋和夫	元根岸町内会会長 忠生地区協議会副会長
4	理事	山田　都	すみれ会会長
5	理事	熊谷　春一	多摩丘陵病院・事務部長
6	理事	畠山　史郎	花の家施設長
7	理事	成澤 勲	法人統括部長、花の郷施設長
1	監事	大久保悦子	社会福祉法人まちのひ 事務長
2	監事	市川健一	東京都障害者スポーツ協会顧問 元都立町田の丘学園校長

２０２１年４月１日～２０２５年６月
定時評議委員会終結時、任期４年

1	評議員	金子好雄	元（社福）紫苑の会理事長 元（社福）まちだ育成会理事長
2	評議員	平本善一	バット博士記念ホーム名誉園長 元桜美林大学教授
3	評議員	小野田義之	元クレイライオンズクラブ理事
4	評議員	柴適	前桜美林中学・高等学校副校長
5	評議員	志村邦義	日本健康ライフデザイン機構理事
6	評議員	岩切孝光	町田木曽西郵便局局長
7	評議員	石原正義	町田市介護人材開発センター センター長
8	評議員	木下美夏	都立町田の丘学園 進路指導部主任教諭

２０２１年度　理事会・評議員会の開催状況

開催日	議案・報告事項等
第１回理事会 2021 年５月２５日（火） ※コロナウィルス感染防止対応により書面による決議の省略	（１）専決報告 なし （２）決議事項 第１号議案　役員等賠償責任保険契約締結承認の件 第２号議案　２０２０年度事業報告及び決算承認の件 第３号議案　次期役員候補者承認の件 第４号議案　次期評議員候補者承認の件 第５号議案　評議員選任解任委員会の開催について 第６号議案　規程類改定承認の件 第７号議案　評議員会召集の件 （３）報告事項 ①　人事労務関係報告 ②　理事長の職務執行状況報告 ③　医療的ケアなどに関する報告 ④　職員の採用と退職の報告 ⑤　運営状況報告及び活動報告 ⑥　今後の予定 ⑦　その他
第１回評議員会 2021 年６月 17 日（木） ※コロナウィルス感染防止対応により書面による決議の省略	（１）決議事項 第１号議案　２０２０年度事業報告及び決算承認の件（別冊参照） 第２号議案　次期役員承認の件 （２）報告事項 ①　次期評議員選任報告 ②　役員等賠償責任保険契約締結報告 ③　規程類改定承認の件 ④　人事労務に関する報告 ⑤　新型コロナウィルス関連報告 ⑥　理事長の職務執行状況報告 ⑦　医療的ケアなどに関する報告 ⑧　職員の採用と退職の報告 ⑨　運営状況報告及び活動報告 ⑩　今後の予定 ⑪　その他

2022/04/16 10:28
保存場所

第２回理事会 2021 年６月 17 日（木） ※コロナウィルス感染防止対応により書面による決議の省略	（１）決議事項 第１号議案　理事長選任の件
第３回理事会 2021 年９月７日（火） ※コロナウィルス感染防止対応により書面による決議の省略	（１）専決報告 労働審判に関する解決金の支払いについて （２）決議事項 第１号議案　９月補正予算承認の件 第２号議案　就業規則等改定承認の件 第３号議案　評議員会召集の件 （３）報告事項 ①　感染状況及びワクチン接種について ②　理事長の職務執行状況報告 ③　医療的ケアなどに関する報告 ④　職員の採用と退職の報告 ⑤　運営状況報告及び活動報告 ⑥　今後の予定 ⑦　その他
第２回評議員会 2021 年９月 16 日（木） ※コロナウィルス感染防止対応により書面による決議の省略	（１）決議事項 第１号議案　９月補正予算承認の件 （２）報告事項 ①　労働審判に関する解決金の支払いについて ②　就業規則等改定の件 ③　感染状況及びワクチン接種について ④　理事長の職務執行状況報告 ⑤　医療的ケアなどに関する報告 ⑥　職員の採用と退職の報告 ⑦　運営状況報告及び活動報告 ⑧　今後の予定 ⑨　その他
第４回理事会 2021 年 12 月７日（火）	（１）決議事項 第１号議案　規程類の改定等承認の件 第２号議案　管理職の人事異動承認の件 第３号議案　評議員会召集の件 （２）報告事項 ①　経営計画策定について ②　買い物支援について ③　感染状況及びワクチン接種について

2022/04/16 10:28
保存場所

	④　花の家　医療的ケア要領について ⑤　理事長の職務執行状況報告 ⑥　医療的ケアなどに関する報告 ⑦　職員の採用と退職の報告 ⑧　運営状況報告及び活動報告 ⑨　今後の予定 ⑩　その他
第３回評議員会 2021 年 12 月 16 日（木）	（１）決議事項 なし （２）報告事項 ①　規程類の改定等について ②　管理職の人事異動について ③　経営計画策定について ④　買い物支援について ⑤　感染状況及びワクチン接種について ⑥　花の家　医療的ケア要領について ⑦　理事長の職務執行状況報告 ⑧　医療的ケアなどに関する報告 ⑨　職員の採用と退職の報告 ⑩　運営状況報告及び活動報告 ⑪　今後の予定 ⑫　その他
第５回理事会 2022 年３月８日（火）	（１）決議事項 第１号議案　規程類の改定等承認の件 第２号議案　３月補正予算承認の件（別冊参照） 第３号議案　２０２２年度事業計画承認の件（別冊参照） 第４合議案　２０２２年度予算承認の件（別冊参照） 第５号議案　経営計画承認の件（別冊参照） 第６号議案　評議員会召集の件 第７号議案　医療的ケアの要綱等承認の件 （２）報告事項 ①　感染状況報告 ②　買い物支援について ③　理事長の職務執行状況報告 ④　医療的ケアなどに関する報告 ⑤　職員の採用と退職の報告 ⑥　運営状況報告及び活動報告 ⑦　今後の予定 ⑧　その他

第４回評議員会 2022 年３月 17 日（木）	（１）決議事項 第１号議案　２０２２年度事業計画承認の件 第２合議案　２０２２年度予算承認の件 第３号議案　経営計画承認の件 （２）報告事項 ①　規程類の改定等について ②　３月補正について ③　医療的ケア要領について ④　感染状況報告 ⑤　買い物支援について ⑥　理事長の職務執行状況報告 ⑦　医療的ケアなどに関する報告 ⑧　職員の採用と退職の報告 ⑨　運営状況報告及び活動報告 ⑩　今後の予定 ⑪　その他

監事監査の実施状況

実施日	監事名	監査項目
２０２１年５月	渋谷　政行 市川　健一	法人定款第 18 条の規定に基づき、2021 年度事業にかかわる理事の職務執行状況及び法人の財務監査

苦情解決第三者委員会

氏名	開催日
馬場　昭乃 比留川　昇良	2021 年４月 26 日（月） 2021 年９月 30 日（木） 2022 年３月 24 日（木）

2022/04/16 10:28
保存場所

2021年度 法人本部　事業報告

1．法人本部経営企画部門

（1）目標
目標1．管理職への評価者研修を実施します。
目標2．専門性の強化を行います。
目標3．将来へ向けての検討を行います。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①　外部事業者に委託して、管理職の評価者研修を実施し、適切な評価ができるように訓練をします。	株式会社ZAC様と契約し1月より管理者対象に評価者研修を実施しています。	実施できました。	次年度8月まで継続します。
（2）－①　事業所ごとに策定した専門性強化の計画の進捗状況を確認し、法人全体の専門性の向上を目指します。具体的には、支援における論理、なぜそのような支援を行うのかを説明でき、専門性のある支援を引き継ぐことができるようにしていきます。そのために、研修や自ら学ぶことを支援するようにeラーニングを導入します。	専門性の強化については、各事業所で取組を計画し実行しました。eラーニングについては、より障がい福祉関連に特化した事業者に変更をし、それに伴いキャリアパス要件のeラーニング部分を更新しました。	概ね実施できました。	
（3）－①　2020年度で終了した中長期計画について次期計画策定に向けて、計画の実施状況評価、ニーズ調査を行います。	経営会議を中心に検討を重ね、職員への意見募集、ご利用者ご家族への意見募集を経て、3月理事会・評議員会に議案として提案し了承を得ました。	実施できました。	財務計画については、2021年度決算のをもとに策定し5月理事会・評議員会に提案します。
・法人医務会議 新たな、医療的ケアに関す指針、要綱を制定し、それに基づく対象事業所における要領、マニュアルの作成を支援し、医ケア児者に対する支援が安全にできるように管理します。	花の郷、花の家、居住支援部支援部、ボワ・エールの作成が完了しました。	実施できました。	
・法人衛生会議 毎月開催される、経営会議と同時開催とし労働安全衛生等に関する内容に関して意見交換等を行います。腰痛防止や労働環境点検を実施します。	労働時間に関しては、時間外の削減が2021年度対比で+152時間、593,087円の増額、2019年度対比で-2,745時間、4,617,123円の減額となりました。	実施できました。	

・法人栄養会議 法人全体の栄養調理に関する内容について必要に応じて開催します。	法人全体会議開催の必要性がなく、開催しませんでした。	実施できませんでした。	
・運営協議会 各事業所の保護者会を対象として、理事長等が参加し、経営状況の報告をし意見交換を行い、法人経営、事業所運営に反映していきます。	感染防止対応として会議開催は、全事業所で中止とし、資料配布のみを行いました。	実施できませんでした。	
・苦情解決第三者委員会 苦情解決の請求があった場合に、委員会を開催します。また、９月、３月に法人に寄せられた意見要望等に関して、外部委員と意見交換を行います。	4/26書面開催、2020年度３月分。 9/30書面開催。 3/24対面での開催。	概ね実施できました。	
・法人感染症等防止委員会（旧法人安全衛生委員会） 感染症防止対応、食中毒防止対応等の各事業所の実施状況の管理及び運用支援を行います。また、法人として統一した対応についての整理等を行います。	感染症情報、東京都等からの通知などの共有を図り、感染防止徹底を都度確認を行いました。クラスターの発生はありませんでした。	実施できました。	
・法人虐待防止委員会 事業所ごとの虐待防止委員会の運営を支援し、研修等の実施に関して管理を行います。１０月を虐待防止強化月間として、集中的に虐待防止等に取り組みます。	虐待防止の徹底の取組を各事業所の管理者と確認し、防止のための取組を事業所ごとの実施を確認しました。	実施できました。	
・法人身体拘束等適正化委員会 事業所ごとの身体拘束等適正化委員会の運営を支援し、研修等の実施に関して管理を行います。	事業ごとの対応を確認し指針の作成を行いました。必要に応じて個別支援計画への記載と同意の徹底を確認しました。	実施できました。	
・法人広報委員会 年４回の広報誌を発行します。	4/23、7/16、10/1、1/14の発行を予定通り行いました。	実施できました。	

・法人防災委員会、災害対応訓練 BCPの作成管理、事業所ごとに作成するBCPを法人防災委員会で作成の支援、シミュレーション訓練の実施、法人としての統一した対応等を管理します。 無線電話通話訓練、安否確認メールの送信及び返信訓練の実施。夜間参集訓練の実施。	BCPの作成、夜間招集訓練は、完了しませんでした。 無線電話、安否確認メールの訓練は定期的に実施しました。	概ね実施できました。	
・管理者評価 ９月上旬に評価用紙を配布し、評価を行います。評価結果は、理事会・評議員会に報告します。	９月に実施し、各管理者へのフィードバックも行いました。	実施できました。	
・災害対応マニュアル見直し ７・８月にマニュアル見直し作業を実施します。修正分は９月に配布します。	今年度は実施しませんでした。	実施できませんでした。	
・職員満足度調査の実施 ９月に実施します。昨年度実施結果と比較して改善点を見つけ出し、次年度の計画に反映させます。	９/27に実施しました。今年度から有期職員に対しても実施しました。ホームページを通じて調査結果は職員へ開示しました。	実施しました。	
・グループウェアの導入 ４月以降早期に、グループウェアを導入し、日常での情報共有、災害時の情報収集や伝達がスムーズに行えるようにします。	グループウェアの導入はできませんでした。検討した結果、グループウェアの多機能なシステムではなく、稟議書の電子化が適切であるとの結論に至りました。	実施できませんでした。	2022年度に稟議書の電子化を実施します。
・給与明細、年末調整の電子化 電子化することにより事務の軽減を図ります。	給与明細の電子化は実施できました。年末調整は、一部国のシステムにより電子化を可能にしました。	概ね実施できました。	2022年度に年末調整の電子化を実施します。
・退勤管理システム（クロノス）の更新 現在のシステムがソフト、ハード面で老朽化しているため最新のシステムに更新します。	システムのバージョンアップを実施しました。勤務パターンを99から999まで増やすことができました。	実施しました。	
・文書データ保存機器（TS・LS）の更新 予定した年限（５年間）を経過しているため、新たな機種に更新し、トラブル時にもタイムロスなく復旧できるシステムにします。	テラステーションからsynologyへの交換を実施しました。交換したことにより、誤ってデータを削除した時の救出が容易になり、日付を指定してのデータ検索ができるようになりました。	実施しました。	

・安否確認メールシステムの変更 現在のシステムが、１１月にサービス提供中止になるため、新しいシステムに更新します。この機会に正規職員のみから、有期契約職員も含めて運用することとします。	緊急メールシステムを安否確認メール２へ変更しました。家族メールアドレスを登録できたり、一斉配信が以前よりやりやすくなりました。	実施しました。	
・人事評価育成制度についての説明 変更した仕組みについて、事業所ごとに説明会を開催します。	対面での説明は、行うことができませんでした。社内報を通じて説明の機会を作りました。	概ね実施できました。	
・社内報の発行 法人の情報伝達を目的として、適宜発行します。	9回の発行を行いました。	実施できました。	職員が求める情報をより載せることが重要です。

2.法人本部事務部門

（１）　目標
目標１．採用事務を改善します。
目標２．ホームページの改善、更新等の管理を行います。また、広報及び社内報を発行します。
目標３．職員一人ひとりの専門性を高め、法人本部の価値を高めます。

（２）　計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）-①　新型コロナウイルス感染症等に対応したリモートでの会社説明会や面接を導入し、求職者が簡便に参加できるようにします。	専用のシステムの導入を図りリモートでの会社説明会を年間３７回実施しました。	実施しました。	
（１）-②　様々な媒体を使用して採用活動を行い、正規職員の欠員状態を早期に改善するように努めます。	インターネット、紙媒体など様々な媒体を活用しましたが、十分に採用することができんせんでした。	概ね実施できました。	
（１）-③　次年度新卒採用についてはリクナビ2022を使用し、早期に内定を出せるように取り組みます。	2022年3月からの解禁に向けてリクナビ、リレイティブと契約し３月より2023年新卒対応を実施しました。	実施しました。	
（２）－①　新たに職員採用に特化したホームページを作成し、採用につなげます。	リレイティブにより新たな採用ページを作成しました。	実施しました。	
（２）-②　定期的にホームページを確認し、不適切な表現等がないか管理します。	不定期でしたが、確認作業は行いました。	概ね実施できました。	

（２）-③　ホームページを通して社内報の発行を行います。	９回発行したものは、すべて印刷用のデータを用意する。ホームページに掲載し職員へ周知しました。	実施できました。	
（２）-④　職員やご利用者、ご家族向けに相談室を作成し、意見や相談を受け付けます。	ネット上に相談室を設けましたが、職員用は必要に応じて活用されましたが、ご家族向けのものはゼロでした。	実施できました。	
（２）-⑤　ホームページ及び広報を通して、ボワ・すみれ福祉会が地域で果たしている社会福祉活動(社会貢献活動)を、具体的に掲載し地域にアピールします。	法人経営の動きや各事業所の取組については広報することはできました。買い物支援の定期運行は次年度４月からとなりました。	概ね実施できました。	
（３）－①　eラーニングを導入し、職員個々の能力向上を図ります。	事業所ごとに研修計画に導入し、活用をしました。また、実施事業者の変更により、より障がい福祉に特化した内容へ変更することができました。	実施できました。	
（３）-②　法人本部職員として必要な知識などを強化するための研修・学習会に職員を派遣します。	十分に実施することはできました。	実施できませんでした。	
・法人研修（外部・内部研修） ①　参加職員の意識向上と、知り得た情報を共有し法人の発展につなげます。 ②　法人連等の主催する研修への参加をします。	ほぼ全ての研修がオンラインになり、参加しやすくなりました。	実施できました。	オンライン設備の強化が必要と思われます。
・法人表彰式の開催（2021年11月18日予定） 当法人および各施設において長年貢献された方などを対象として、表彰を行います。	法人全体での実施は中止しました。事業所ごとで実施しました。	実施できませんでした。	
・町田市社会福祉法人施設等連絡会への参加 引き続き参加し、町田市の福祉の向上のために役割を果たしていきます。	例会、総会がオンラインでの実施でした。対面より参加しやすくなりました。	実施できました。	

2021年度 ニーズセンター花の家　年間総括

1．生活介護「花の家」

【支援全体】

（1）目標
①（支援）ご利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援を提供します。
②（活動）活動の充実を図り、豊かな経験と彩りある生活を支援します。
③（健康）専門職や関係機関と連携しながら健康生活を支援します。
④（職員）質の高い支援、サービスを提供する為、職員育成（資質向上と専門性の習得）を図ります。
⑤（安全）リスク管理を徹底し、安心して過ごせる環境を整えます。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1ご本人のニーズやご家庭の想い、年齢や状態等を加味しながら、その人らしい成長を支援します。	新規ご利用者5名が入所されました。面談の中でニーズを聴き取り、支援計画に反映させました。日々の支援にて職員が習得してきた技術・知識を駆使し、ご利用者が安心安全に過ごせる様に努めました。	実施できました。	
①－2 多くの人との関わりを通し、集団の中の一人ひとりの役割や力が発揮されるように支援します。	一人ひとりの個性に合わせた支援方法を探り、グループ職員間で話し合いました。その結果を周知し、ご利用者の役割や持っている力が発揮できる場を提供しました。	実施できました。	
①－3 施設内の相談支援事業や地区の障がい者支援センターを中心とした関係機関と連携を図りながら、家庭を含めた総合的な支援を行います。	ご家庭と施設だけでは解決出来ない事案については、相談支援事業所や障がい者支援センターと連携を図り、必要に応じて面談を行い解決に努めました。	実施できました。	
②－1＜活動における5つの柱（①作業活動、②療育活動、③身体への取組、④社会活動・余暇活動、⑤個別活動）＞に基づき、多角的な観点から、ご利用者の生活が豊かになるよう支援します。	５つの柱を軸として、活動提供しました。また、ご利用者に活動内容やその他様々なことを選択していただきました。物事を選ぶことが人として当たり前のことであると感じていただけるように、支援しました。活動や人との関りで得た喜びが生きる活力となり、豊かな生活が送れるように支援しました。	実施できました。	

②－２ ニーズがあるご利用者に対し、入浴支援を行います（週１回）。	毎週木曜日にご希望のあるご利用者に対して、入浴を実施しました。マニュアルを使って、安全な入浴介助を行いました。 また、アンケートを配布して「利用人数」「回数」の見直しを行いました。	実施できました。	
②－３ 補足的な支援として、通所時間外の支援（日中一時支援）、保護者による通院が困難な場合の付添い、入浴（週１回）サービスを提供します。	事前申請や緊急的に要望があった方に対して、日中一時支援を行いました。 また、必要に応じて木曜日以外の入浴介助を行いました。	実施できました。	
②－４ ご利用者が健康で文化的に過ごせるよう、スポーツを推奨し活動に取り入れていきます。	ボッチャ・トランポリン・ムーブメント、プール等、活動の中にスポーツを取り入れました。楽しい時間を過ごすだけではなく、体を動かすことで代謝が良くなっていました。	実施できました。	
③－１ご利用者の状態、体調等を配慮した活動プログラムを提供し、生活リズムを整えます。	ご利用者の表情や動き、バイタル値、連絡帳の内容を見て状態の把握に努めました。普段と違う様子があれば、参加する活動を変えたり、横になれる時間を設け体調に配慮しました。	実施できました。	
③－２看護師や嘱託医（内科、小児科、歯科）、訓練士等の専門職や地域の医療機関等と連携しながら、健康を支援します。	看護師・訓練士や関係機関と連携し、ご本人にとって最良と思われる方法で支援しました。嘱託医には必要に応じて相談しました。 また、日々連携を取ることで情報の共有が確実に行えていました。	実施できました。	
③－３ 一人ひとりに合った食事形態や環境の提供と喫食状況の把握をし、安心、安全で楽しく食事ができるよう支援します。	残食調査や嗜好調査を行い、喫食状況を把握しました。 新規入所者を中心に、医師会の先生に摂食の評価をしていただき、安心・安全に食事が摂れる環境を整えました。また、ＯＪＴの中で摂食の引継ぎを行い、技術・知識が向上しました。	実施できました。	

④－１ 研修等を通じて必要な知識や専門性、高い技術を身につけ、適切な支援が出来るよう努めます。	感染症予防によりほとんどの外部研修への参加を取りやめました。内部研修は年間計画通り行い、必須の研修を着々と進め、専門性が身につくよう努めました。 定期的に個人ファイルの見直しを行い、障がいにおける必要スキルを身につけることが出来ました。 また、人権擁護・虐待防止についての研修を全職員を対象に行いました。	実施できました。	
④－２ 外部研修や学習会等で得た知識や情報を職員間で共有し、支援現場で活かしていきます。	感染症予防により外部研修に参加出来ませんでしたが、内部研修で得た知識を即現場で活かせるような工夫を行いました。	実施できました。	
④－３ 将来に渡って法人及び事業所にとって強みとなるような「専門性」とは何かを考える為のプロジェクトチームを立ち上げ（「専門生PT]）、社会動向や福祉情勢等の調査、取り組みの検討を進めていきます。（2年間）	７月に専門性PTの会議を行いました。メンバーが花の家の強みと弱みや、ご利用者にとって、職員にとって良い物を作ろうと話し合いまいた。自分たちでできることや、社会動向も含めて法人の将来を構想しました。 ３月に行ったPTにおいて、次年度の具体的な取り組みについて話し合いを行いました。	実施できました。	
⑤－１　避難訓練、応急救護訓練、防災教育等の訓練を継続して実施します。	感染防止に努めつつ、短時間で実施しました。 応急救護訓練は正規職員と新人に対象を絞るなどして実施した。	実施できました。	
⑤－２　防災訓練（内容）のバリエーションを増やし、いろいろな状況に合わせて避難行動がとれるように訓練していきます。	感染症予防により全体では集まれなかった為、バリエーションを増やすことはできませんでした。	着手したが、達成できなかった。	
⑤－３　地域機関や地域住民等と連携した避難訓練、防災訓練を行います。	地域関係機関と訓練の共同開催について話をしていましたが、感染拡大により実施には至りませんでした。	着手できなかった。	
⑤－４　大規模災害を想定した宿泊訓練、BCP（事業継続）訓練を実施します。（年3回・9～11月）	準備を進めていましたが、感染症予防により、今年度は中止としました。	着手したが達成できなかった。	

⑤－５　研修の実施や警察などと連携を図りながら、防犯への意識づけをおこないます。	リスク管理委員会において、１月に警察による防犯研修を企画いたしましたが、感染拡大により中止となっています。	着手できなかった。	
⑤－６　新型コロナウイルスやインフルエンザ等への感染予防策として、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を整えます。	てあらいうがい、換気、３密の回避、マスク着用の徹底、空気清浄機の導入、各所のアルコール除菌、パーテーションの間仕切り等々を全支援者に徹底し、安心・安全に過ごせる施設環境を整えました。	実施できました。	

【Aグループ】

（１）　目標
①　個々のご利用者のニーズやペースに合わせた活動提供を目指します。
②　地域交流を通し、豊かな社会性を育みます。
③　生活リズムを整え、健康維持に努めます。
④　重度重複障がいや医療的ケアに関するスキルの共有・向上を目指します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　その日の体調に合わせて活動選択ができるよう、活動交流を含めた複数の活動を提供します。	感染症対策のためグループ間活動交流は控えましたが、施設関係者にコロナウイルス陽性者が発生したことで濃厚接触者となり、2週間欠席することとなりました。 活動的な作業とゆったり過ごせる活動を設定することで、ご利用者がその日の体調やリズムに合わせて活動参加が出来ました。	実施出来ましたが、結果が不十分でした。	感染動向を鑑み、事業所のルールに追加して、一行為一手洗いまたは手指消毒を徹底し、職員を介した感染の防止に努めます。
①－２　活動参加時の姿勢について、安楽に過ごせるよう配慮します。	長時間同一体位が続かないようにチルト等で配慮しました。また、車椅子から降車してゆったり過ごすなど、ご利用者と活動参加時の姿勢を相談して決めました。	実施出来ました。	

②－Ⅰ　感染対策に配慮しながら、施設外での活動や地域交流の機会を提供します。	可能な限りのマスク着用や手洗い、消毒、CO2計測器を用いた換気や少人数での活動設定等の感染症対策を徹底しながら、尾根緑道周辺や公園へのエコ活動、ドライブ等の機会を設定しました。不特定多数の人との接触を避けるため、地域交流は実施出来ませんでした。	実施出来ました。	
③－Ⅰ　ご家庭と情報共有を行いながら健康状態を把握し、心身ともに安定して過ごせるよう、医療職と連携を図りながら健康支援の充実に努めます。	体調面等について、連絡帳やお電話にてこまめにやりとりし、また日々の細やかな変化を看護師と共有することで、小さな体調変化に気づき対応することが出来ました。	実施出来ました。	
④－Ⅰ　情報共有とさらなる支援力向上を図るため、グループ内でミニ勉強会を設定します。	チームとしての支援力向上に向けて、ご利用者に関する情報共有とケース検討を中心に取り組みました。また、感染症の動向を鑑みながら特別支援学校や近隣の福祉施設見学を積極的に行い、グループ会議内で共有しました。	実施出来ました。	

【ＢＣＤグループ】（済）

（Ⅰ）　目標
①　個々のご利用者のニーズやペースに応じた活動を提供します。
②　集団生活、個別支援を通し、社会性のあるグループ運営をおこないます。
③　生活リズムを整え、健康維持に努めます。
④　安全の範囲内で地域交流等を行い、豊かな感受性を育みます。
⑤　家庭支援や地域資源の活用を通して、地域における自立生活を支援します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－Ⅰ　個別性を重視した活動を提供します。	個々の選択した意見を尊重しながらご本人ペースに合わせた活動提供をしました。	実施できました。	

①－２　様々な活動が行えるよう、新たな内容を模索します。	活動の根幹自体は大きく変わることはありませんでしたが、生産活動でシュレッダーを使用したり、トランポリンの時間を増やすなど、ご利用者が積極的に関われる活動内容を随時考え、実施しました。	概ね実施できました。	
①－３　他グループとの活動共有を図ります。	火・木曜日の午前中の生産活動を中心に、臨機応変にＢＣＤで活動共有しながら作業を行いました。	実施できました。	
②－１　集団生活の中で周囲のことを意識した行動がでじきるよう支援します。	支援者が間に入り、ご利用者同士が笑顔で声を掛け合えるよう支援しました。	実施できました。	
②－２　ご利用者のできることを把握し、ご利用者が意識的に行動に移せるよう支援します。	活動準備や食事の片付け、送迎の乗車確認など、個々でできることを見つけ、それに合わせた声掛け等を行いました。声掛け等に合わせ、各ご利用者も積極的に行動する様子が見られました。	実施できました。	
②－３　職員の言動等に注意し、誰に対してもしっかり説明ができる支援を行います。	職員への研修などを通し、不適切な支援がないよう随時注意喚起を行いました。ただ、後期頃になると、職員が環境やご利用者に悪い意味で慣れてしまう場面も多々あり、言葉遣い等が適切でないことが見られました。会議等で適切な関わり方、言動を周知し、ご利用者と距離を縮めるなかで、一定のモラルを守ってもらうよう支援を統一しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	毎月のグループ会議等で不適切な支援についての話を随時行い、職員が自分の言動について、改めて振り返る機会を設けます。
③－１　毎朝のバイタルチェックを実施し、体調の変化に気づくよう努めます。	毎日、来所後にバイタルチェックを行い体調管理に努めました。また、感染症予防のため、送迎車乗車時にも検温を行いました。	実施できました。	
③－２　健康維持・体調に配慮した活動を提供します。	体づくりを中心に体調管理などを行いました。また、ムーブメントなどでリラックスできる活動を提供しました。	実施できました。	

④－１　感染症の流行を見極め、安全第一に考えた地域交流・外出を行います。	コロナ禍により、1日外出や外部のレクリエーションなどはできませんでしたが、感染症予防をしたうえで短時間の買い物、公園への外出を随時行いました。	実施できました。	
④－２　外出等が難しい時はそれに代わる活動等を設定し、ご利用者の豊かな生活を支援します。	感染症対策をしたうえでのハロウィンやクリスマス会、各グループでの調理や食事会、レクリエーション（クイズ大会やスポーツ大会など）などを実施し、メリハリある生活が送れるようにしました。	実施できました。	
⑤－１　社会資源の活用により、自立に向けて支援します。	相談支援事業と連携し、他の社会資源の紹介を行う等、個別のケースに対し支援をしました。	実施できました。	
⑤－２　家庭環境を理解し、各ご家庭に寄り添った支援を行います。	各ご家庭の状況を把握し、通院同行や送迎の調整、レスパイトなど、ご家族のご要望にできる限り応えられるよう支援しました。	実施できました。	

【EFGグループ】

（1）　目標
①　個々のニーズや得意なことを活動の中に取り入れ、持てる力を発揮できるように支援します。
②　地域との繋がりを大切にした活動を行います。
③　ご家庭やグループホームと連携しながら健康で安定した生活を支援します。
④　レクリエーションを充実させることで心身のリフレッシュの機会を持ち、日々の活動に取り組む意欲につながるようにします。
⑤　職員の障がいへの知識・理解が共有、向上できるよう目指します。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　他グループと活動共有をしながら、個々の興味や状態に合った活動提供をします。	3グループでの活動共有が出来ました。その為、個々に合わせた活動提供も出来ました。	実施出来ました。	
①－２　作業を含めた活動や生活の中で、ご本人が行えることの幅を広げながら、一人ひとりの力が発揮できるよう支援します。	ご本人のペースで出来る限り作業するよう支援しました。出来なかったことも出来るようになったご利用者もいました。	実施出来ました。	

②－１　施設外での活動（リース等納品やビラ配り、出張販売等の作業や買い物など）に取り組むことで、地域の方々と触れ合う機会を設け、社会参加につなげていきます。	ハボタン直売のビラ配りを畑近隣の住宅へしました。その他には、職員募集など施設からの要望でビラ配りをしました。 しかし、地域の人達との交流はコロナ禍の為ありませんでした。	概ね実施出来ました。	
③－１　ご家庭・ホームや医務と情報を共有しながら、体調把握に努めます。	必要な時には各ご家庭やグループホーム、医務などと体調に関する情報共有を行いました。	実施出来ました。	
③ －２　日々のバイタルチェック及び月1回の体重測定を行い、健康状態の把握に努めます。	来所後、帰所前には必ずバイタルチェックを行いました。体重測定も毎月行いご家庭に連絡帳を通じてお伝えしています。	実施出来ました。	
④－１　心身のリフレッシュや日々の意欲につながるイベントを企画し、実施します。	各グループでお誕生日会などを設定しました。また、施設でも季節行事などを行いました。	実施出来ました。	
④－２　ご利用者が楽しみながら参加できる運動プログラムの充実に努めます。	運動活動では、トランポリンを中心に行いました。ハードルでは跨いだり、ハイハイをしてくぐり抜けありして普段はやらない動きを取り入れました。また、新しい体操を取り入れました。	実施出来ました。	
⑤－１　情報共有のさらなる向上と研修への積極的参加が出来るよう努めます。	EFG会議でご利用者の情報共有を行いました。また、全員の参加は出来ませんでしたが、希望している研修に参加が出来ました。	実施出来ました。	

２．クッカ広場

【全体】

（１）目標
①　事業収入(売上)1,700万円を達成します。
②　ご利用者一人ひとりの適正に応じた就労支援を行います。
③　心と体の健康状態を観察します。
④　防災訓練を定期的に実施することで、災害に対する意識づけを行います。
⑤　生活面の相談を行い、円滑な施設利用を促します。
⑥　職員育成として、支援及び就労分野の専門性の向上を図ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１　リサイクル事業では、季節ごとにセールを開催し商品を入れ替えることで「飽きの来ない楽しみを提供できる店」作りに力を入れ、売上1,070万円を達成します。	新型コロナウイルス感染予防対策をしっかり行い、5回のリサイクル全品半額セールやズボン・スカート10円セール、割引セールなど一年を通じてお客様に喜んでいただける企画を開催しました。コロナ禍で月によっては客足が遠のいてしまうこともありましたが3月1日に目標金額1.070万円を達成し、年間売上総額は11,570,370円となりました。	実施できました。	引き続き行っていきます。
①-2　受託ガーデン事業では、観葉リース・花壇管理・除草・分別作業などの受託作用を中心に売上420万円を達成します。	コロナ禍で昨年度より受注事業が縮小しました。日々のＣＤ仕分け作業や月々の観葉リース、パーキングメンテナンスや草むしり等を行いました。また、5月・12月に小山田花壇植え付けを行い、月2回の花壇管理を実施しました。常に品質管理に努め11月下旬より葉ボタンの販売、12月にはロイヤルライフ多摩の出張販売、年度末には花束や演台花・寄せ植え作りを行い売り上げの向上を図りました。ガーデン店舗売り上げ2,187,822円、受注とその他の収入は、1,475,018円　合計3,662,840円で目標には至りませんでした。	概ね実施できました。	引き続き行っていきます。

①-3　カフェ事業では、「お家でカフェ」スタイルを提案することで自家焙煎珈琲豆の売上向上を図り売上210万円を達成します。また、珈琲に合うテイクアウトスイーツにも力を入れていきます。	コロナ禍で通年店舗営業を休業しました。6月までの焼き芋販売、夏場にはアイスクリームやドリンクの販売を行い、9月に焼き芋、クッカプリンの販売を再開しました。年末にギフト用珈琲の注文が多数あり、また季節的に焼き芋の需要が高まり売り上げを伸ばすことができましたが、店舗の休業や作業提供、人員配置など多くの課題があり、検討の結果珈琲販売やスイーツ販売を含めカフェ営業を今年度で休止することとしました。売り上げは、店舗売り上げ760,790円とふるさと納税返礼品収入27,130円　合計787,920円にとどまりました。	実施できませんでした。	カフェの在り方を検討していきます。
②-1　モニタリングやアセスメント面談を６ケ月毎に行い、ご本人のニーズや課題を整理しながら支援計画書を作成します。	8月・2月にアセスメント、モニタリングを実施しました。ご利用者それぞれの現状を整理し、課題やニーズを引き出し、必要に応じて支援目標を変更し9月・3月に個別支援計画を作成しました。	実施できました。	
②-2　職場でのあいさつの習慣化やコミュニケーションの図り方、身だしなみへの意識づけなど、社会性が学べるよう支援します。	職員から積極的に挨拶をするとともに日常的に社会人としてのマナーやクッカ広場でのルールを守ることの大切さを伝えました。社会性に課題の見られた方には声掛けし、改善に向け話し合うとともに、必要に応じてご家庭やＧＨと情報共有し、連携を図り支援しました。一部ご利用者に身だしなみの改善や社会性の向上が見られました。	実施できました。	
③ー１　朝礼や日中活動でご利用者の顔色や表情を観察し、気になることがある際にバイタルチェックを行います。また、気持ちの落ち込みなどが見られた際には丁寧に話を伺うことで相談しやすい環境をつくります。	新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しご利用者の体調把握に努めました。日に2回（状況に応じて4回）の体温確認と日常的にご利用者の様子観察を行い個々の状態に応じた対応や支援を行いました。話を聞いてほしいとの希望があった際や気持ちの落ち込みが見られた際には、時間を作り丁寧に話を伺いました。	実施できました。	

③-2　医務部門との連携を大切にしながら、健康診断や歯科検診の実施、急な体調変化に対応します。	7月に健康診断を実施しました。８・９・２・３月には施設でコロナワクチンの集団接種を行い多くのご利用者が早い段階でワクチン接種することができました。大きな副反応は見られませんでした。歯科検診はコロナ禍で中止となりました。日々の体調変化やケガがあった時には医務と連携し対応、対処しました。受診につながるような大きなケガや体調不良はありませんでした。	実施できました。	
④-１　年２回の防災訓練を実施し繰り返し訓練することで、避難経路の確認や災害時の注意事項が学べるよう支援します。	8月・12月に地震を想定した防災訓練を実施しました。コロナ禍でで蜜を避け各事業所ごとの訓練となりました。繰り返し行ってきた訓練のおかげで地震発生時における動きや避難をスムーズに行うことができました。	実施できました。	
④-２　安全に避難誘導できるよう、防災頭巾の収納場所や災害持ち出し袋の中身を定期的に確認します。	年度初めに防災頭巾やヘルメットの収納場所を職員全体で確認しました。置き場を整理し見やすく取りやすい形にしました。棚の中に収納されたヘルメットを誰にでもわかるようにポップを使用し明示しました。持ち出し袋の預かり薬やフェースシートの再確認を行いました。	実施できました。	
⑤-１　生活面での課題が見られた際にはご本人が困っていることや不安な事柄を把握し、改善に向けた話し合いを行います。	日常的にご利用者の状態変化や様子観察を行いました。状態変化や課題の見られた方には声掛けし、生活改善の必要な部分をご本人に分かりやすく説明するとともに改善するための具体的方法などを提案しました。必要に応じてご家族やＧＨと情報共有して連携を図り支援しました。	実施できました。	

⑤-２　ご要望に応じて保護者・GHとの面談を行い、必要な支援を行います。	コロナ禍で面談が制限されましたが、必要に応じて保護者やグループホーム・関係者と話をしたり、連絡帳を通じて情報を共有し、連携を図り支援につなげることができました。ご利用者に法人内のグループホームの空き情報を提供しました。以前、グループホームの入居を希望された方やご家族には個別の対応を行いましたが入居には至りませんでした。また、状態像に大きな変化が見られた方のご家族からご希望があり、現状報告や今後の支援について面談を行いましたが、状況を改善するには至りませんでした。	実施しましたが不十分でした。	
⑥-１　目標管理面接等を通して課題に対する研修計画を立て、実行します。	職員の経験年数や状況に合わせて必要な研修が受講できるように調整しました。8月に【東京都障害者虐待防止・権利擁護研修】2月にサービス管理責任者更新研修を受講しました。	実施できました。	
⑥-２　サービス向上会議で研修内容を共有し、具体的に現場の支援に活かします。	6月「虐待・身体拘束」、7月「障害者差別解消法」・「介護現場のリスクマネジメント」、11月「東京都障害者虐待防止・権利擁護」共有研修、2月「ノロウィルス」研修を全職員で行い、支援につなげることができました。	実施できました。	
⑥ー３　サービス向上会議で専門性とは何かをテーマに、意識の向上、気づき発見につなげます。	日々の終礼で気づき、発見等を共有し、また支援の専門性として応用行動分析学の活用や、事業展開におけるオペレーションの質の向上の必要性を全職員で確認し、意識の向上を図りました。支援はもとより、各実施事業に関しても課題や問題を抽出しながら専門性を高めるために話し合いを行い質の向上や改善に努めました。	実施できました。	

３．かけはし

（１）目標
①　障がい福祉サービスを利用する方のより良い暮らしづくりを目指し、当事者の想いに寄り添った相談支援を提供します。
②　当事者のニーズに応え、生活を支える為に、各種サービス利用や社会資源の調整、マネジメントを行います。
③　相談支援で得られた情報を通して地域における課題を明らかにする中で、障がいのある方が暮らしやすい地域社会の実現を目指していきます。
④　相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を目指し、研修等を通じて相談員の育成に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
障がい福祉サービスを利用する方のより良い暮らしづくりを目指し、当事者の想いに寄り添った相談支援を提供します。	先ずは当事者の思いに寄り添った上での相談、情報提供、提案を行うよう努めました。	概ね実施できました。	
当事者のニーズに応え、生活を支える為に、各種サービス利用や社会資源の調整、マネジメントを行います。	開所5年目となり、相談業務を通じて蓄積してきた地域における様々な情報を基に、ご利用者が必要とされる支援を提供しました。。 近年、長年診てくれて来た小児科から一般成人を診る科（内科、精神科等）への移行（移行期医療）について相談される事例が増えている。何例かは一般病院や訪問診療に繋げることができたものの、かけはしで持っている医療に関する情報は少ない為、関係機関からの情報提供、うまく移行できた事例を通して地域医療機関の情報を収集しているところです。	一部実施できました。	ご利用者の多様なニーズに応答する為、引続き各種福祉サービス、様々な地域情報を収集していきます。 特に移行期医療については情報が少ない為、学習を深めつつ情報収取に努めていきます。
相談支援で得られた情報を通して地域における課題を明らかにする中で、障がいのある方が暮らしやすい地域社会の実現を目指していきます。	上記の移行期医療に関する課題についてインターネット等で調べたり、関係機関から話を伺う等して、法人の広報誌に関連記事を掲載しました。 かけはしが参加している社会福祉法人施設等連絡会（通称「法人連」）の相談支援部会で、特に地域生活支援拠点についての学習、意見交換等を行い、当会委員を通じて町田市施策推進部会へも意見具申を行っています。	実施できました。	継続的に取り組みます。

相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を目指し、研修等を通じて相談員の育成に努めます。	相談業務の質の向上を目指し、町田市で開催した研修会、都で実施した人権擁護・虐待防止研修、医ケア児を対象にした医ケア児ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成研修事例検討会に積極的に参加しました。	実施できました。	継続的に取り組みます。

３．医務部門

（１）目標
①　ご利用者の安心・安全な生活を目指して心身の健康支援を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ご利用者の体調を把握し、異常の早期発見・早期対応に努めます。 ・軽微なけがなどの処置 ・バイタルサインチェック（毎日） ・嘱託医（内科医、小児神経科医）による医療相談（毎月）　・健康診断のチェック（年１回） ・訓練士（OT）による作業訓練（月２回/不定期） ・町田市口腔保険センターによる歯科検診（年１回） ・鶴川記念病院健診部による健康診断（年１回） ・歯科医師による摂食指導	・軽微なけがの処置や体調不良時については、支援職員やご家族・グループホームとの連携の下、対応しました。 ・７月１５日鶴川記念病院健診部による健康診断を実施しました（生活介護・就労Bの希望者）。健診結果は嘱託医に確認、助言をしていただき支援職員と共有しました。 ・例年秋ごろに行なっていた町田市口腔保健センターによる歯科健診は感染症流行状況を鑑み、中止の決定をしました。 ・今年度より町田市歯科医師会医師による摂食指導が始まりました（生活介護）。 ・毎月２回、嘱託医による医療相談を実施しました。 ・訓練士（OT）による作業訓練等は生活介護の各グループを巡回し、支援職員や看護師に対して助言・指導を行なっています。	実施できました。	引き続き行っていきます。
①－２　服薬管理を適切に行います。 ・日常的な服薬内容の把握 ・3日分の予備薬管理	・預かり薬の交換を行いました。交換方法の見直しを行い、わかりやすくしたことで交換作業が比較的早く終了しました。 ・６月に生活介護の各グループ会議で「薬の取り扱い」について研修を行いました。 ・市販薬、屯用薬の服用介助についての問い合わせが数件ありました。ルールについて保護者、職員の周知不足を感じました。	実施できました。	引き続き行っていきます。 「市販薬及び屯用薬等の服用について」ルールが定着するまで毎年案内を配布します。

①－３　ご家族、主治医、嘱託医、提携病院、他の専門職（栄養士、ＯＴ等）、支援職員、他事業所等との連携を図り情報の共有をします。	・日々、支援職員、ご家族、主治医、嘱託医、他事業所等との連携に努めました。 ・多摩丘陵病院、支援職員と連携を図り、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施しました。	実施できました。	引き続き行っていきます。
①－４　軽微なけがなどの処置は、支援職員が安全に実施できるように指導していきます。（「医行為でない行為」に基づいて）。	・軽微なけがや虫刺されなどの処置はその場で支援職員に指導をし、支援職員が処置をできるように努めました。しかし、一部の支援職員に留まっているため研修等を通して指導力の向上が必要だと思いました。	実施できました。	引き続き行っていきます。「医行為でない行為」に基づき、軽微なけがや虫刺されの処置について研修等の機会を設けます。
①－５　介護職員等による喀痰吸引等の指導要綱に基づき、対象者への実地研修・指導を行います。	・認定特定行為業務従事者に対し実地研修を行い、日々医療的ケアの指導を行いました。 ・10月、吸引手技のフォローアップ研修を実施しました。	実施できました。	引き続き行っていきます。

４．栄養部門

（１）目標
①　季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、利用者の嗜好の反映等に努め、より美味しくて飽きのこない食事の提供を目指します。
②　ご利用者個人にあわせた食事形態を提供をします。
③　HACCPに沿った調理環境の整備、衛生管理を徹底し、安心・安全な食事を提供します。
④ 肥満、生活習慣病予防対策としてご利用者の栄養管理を行います。
⑤　知識や技術の向上を目指します。
⑥　安定した食事を提供する為、発注漏れ等の事故防止に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　旬の食材や行事食を取り入れ、季節感のある食事を提供します。	旬の食材の使用(花の家で採れたパセリ・じゃが芋使用)、行事食(入所式・子供の日・七夕・土用の丑・海の日・山の日・夏祭り・十五夜・ハロウィン・クリスマス・成人式・節分・バレンタインデー・雛祭り・ホワイトデー)を工夫し、季節感のある食事を提供しました。	実施できました。	

①－２　嗜好調査（5月・11月）残食調査（8月・2月）を実施します。	嗜好調査：5/24(月)～28(金)・11/15(月)～19(金) 残食調査：8/23(月)～27(金)・2/21(月)～2/28(月)に実施しました。	実施できました。	
①－３　栄養会議を実施し、献立や食事内容の改善を行います。（毎月）	支援各事業所(生活介護・クッカ)へアンケートを配布し、それを元に栄養会議を行いました。(8月は栄養士休職の為、栄養会議の実施なし)支援からの意見や喫食状況・要望を把握した上で、食事内容の改善を行いました。質問があった場合は、回答を正職会議資料に載せ、全体へ周知できるようにしました。(給食の味付け[濃さ･辛さ],固さの調整・パン粥の時,はちみつを加えた所,ゆるくなった為,今後はパンが主食の際は形態食にはちみつを付けない 等)	概ね実施できました。	
①－４　リクエスト給食や栄養部門アンケートを実施し、ご利用者の嗜好を取り入れた献立を作成します。	10・11月分以外の献立は、栄養部門アンケートの要望やリクエスト内容を検討し、献立に取り入れました。(8月に栄養士休職の為、10・11月献立は2020年度の献立をそのまま使用した為。10・11月配布分のアンケートの要望は、12月分に反映。)	概ね実施できました。	
①－５　保護者向けの給食試食会を実施し、保護者のニーズや意見を把握します。	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
①－６　調理研修の実施やマニュアルを作成し、安定した食事の提供をします。	調理研修については、コロナ対策の為、実施していません。 マニュアル作成については、HACCPに基づいた衛生管理についてのマニュアルを作成しました。	概ね実施できました。	調理実習については、再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)
①-7　グループ訪問を行い、ご利用者の食事状況の把握に努めます。(11月～3月感染予防週間以外の期間)	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	再度次年度計画する。(コロナ感染状況による)

②－１　支援職員と連携を図り、ご利用者の摂食機能に合った食事形態を検討し、食べやすい食事を提供します。	児童支援部と保護者のヒアリングにより、食事形態変更の要請があり、2名の児童の食事形態の変更を行いました。(※給食提供は春･夏･冬の長期休業日のみ)摂食評価を経て、生活介護で食事形態変更の依頼があり、1名のご利用者の食事形態の変更を行いました。摂食については、今年度開始の歯科医師の巡回診察(年4回)の結果も考慮している。	実施できました。	
②－２　必要に応じたアレルギー対応・治療食等の提供をします。	今年度は、昨年度からのご利用者のアレルギー対応・制限食対応のみで、新規のアレルギー対応・制限食対応のご利用者はおりませんでした。		
②－３　食品注入食導入に向けて、支援・医務との連携を図ります。	5月より新たに1名、支援や医務と計画を立て、開始時期や注入量を調整し、食品注入を開始しました。	実施できました。	
③－１　配膳間際の盛り付けや、保温性のある食缶の使用、電子レンジを活用し適温での食事の提供をします。HACCPに沿った衛生管理を行います。（毎日）	適時適温と調理後2時間以内の喫食を遵守する為に、調理工程の見直しと配膳間際での盛付け、冷蔵庫での保管等の適切な温度管理を行いました。	実施できました。	
③－２　細菌検査を実施します。(毎月）	毎月1回実施しました。	実施できました。	
③－３　食品、冷凍・冷蔵庫、厨房の室温等の温度管理を行います。	調理機器の温度管理を行いました。	実施できました。	
③－４　手洗い後のペーパータオルの使用・アルコールでの消毒、使い捨てマスクの使用等、衛生管理を徹底して行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－５電解水、殺菌庫、食器消毒保管庫を使用して調理器具類の消毒や殺菌を行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－６　日常的な清掃（床、冷蔵庫、トイレ他）と定期的な清掃（換気扇、下水）を行い、厨房内を衛生的に保ちます。	日常清掃に加え、随時気になる所の清掃を行っている為、清潔に保つ事が出来ました。	実施できました。	

③－７　調理従事者の衛生教育を行います。	11月に調理職員・支援職員に向けて、手洗いチェッカーを使用した手洗い研修で、衛生教育を行いました。	実施できました。	
③－８　HACCPに沿った厨房の環境整備を行います。	HACCPに基づいた衛生管理マニュアルを整備し、6月より、運用開始しました。	実施できました。	
④－１　給与栄養量に基づいた食事を提供します。	昨年度より、給食の塩分量を見直し、塩分量を減らしました。	実施できました。	
⑤－１　調理実習や試食会の参加等を行い、技術や知識の向上を目指します。	今年度もコロナ対策の為、研修、試食会等の参加はしていません。	着手できなかった。	保健所等の研修はwebで参加。(栄養士)
⑤－２　法人内の他事業所との連携を図り、知識や技術の向上を目指します。	花の郷・アルモニーとの業務提携はありませんでしたが、HACCP対応・集団給食施設の営業届出更新等で情報交換を行いました。	実施できました。	
⑥－１　事故防止の為、発注等の漏れが無いよう、チェックを行います。	栄養士が作業指示書作成後、掲示用献立表と直近の過去メニューを参照の上、発注前後のチェックを行い、在庫チェックリストを元に在庫チェックを行いました。7月末～9月中旬、栄養士が休職～職場復帰の間は、調理正職が発注・発注チェックを行いました。11月以後については、上記の事故防止策に加え、発注書作成から発注前後の品目名・規格量のチェックも徹底する。	実施できましたが、結果が不十分。	4月～8月分、11月～12月にかけて、栄養士が発注ミスを十数回起こした為、発注時の物品の規格量の確認、発注前後の品目チェックと在庫チェックを徹底する。

５．運営部門

（１）目標
① 設備環境や人的環境を効果的に運用し、健全な財政運営を行います。
② 法人の人事制度と連動させながら、職員の育成と専門性の向上に努めます。
③ 働きやすい環境と自己責任と自主性、チームワークを大切にした強い組織作りを目指します。
④ 職員の心身の健康管理に努めます。
⑤ 感染予防、防災、防犯等に努め、安全で安心して過ごせる環境を整備します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１設備環境や人的環境を効果的に運用しながら、健全な財政運営、資金の確保に努め、将来的に持続可能な施設運営、法人経営を行います。	新型コロナウィルス感染拡大による事業毎のエリア分けを行う等、従前のような設備及び人的環境を有効に活用することはできなかった。 同様の理由からご利用者が通所控えをする等、収入的に厳しい面はあるが、その分予算を極力削減する等して健全な予算編成をすることができている。	一部取り組めました。	
①－２財政状態を勘案しつつ、適正な職員配置を行い、予算と現場のバランスが取れた運営を行います。	正規職員の急な欠員等があった為、採用と配属の在り方の見直しを行った。職員全体に占める正規職員の人数や比率、育成、予算等の観点から考え直した結果、当初予定していた正規職員一名分を非常勤（有期）職員に切り替えて採用活動を継続することとした。	一部取り組めました。	採用が困難な状況が続いており、現場の負担感が強くなっている。 法人全体の課題として共有し、採用活動の見直しと深化が求められる。
②－1法人の人事制度と連携し、職位や経験、自己目標に応じた成長方針に基づいた目標管理計画を立案し、職員の質と専門性の向上を図ります。	法人の人事制度の試行的運用に併せ、新しいフォーマットを使用した目標管理面接を開始した。 まだ試行的段階でもあることから、管理者も職員当事者も目標設定についてまだ理解が十分でないところはあるが、階層に照らした上で個人目標の設定という当面の目的には取り組めた。 法人のキャリアパスと目標管理シートを基にした研修も試行的に実施している。 成果については一年間かけて判断していきたいと考える。 専門性の向上について考える為のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを開始したが、前期中には方向性を見い出せていない。	一部取り組めました。	

②－2各現場において、ＯＪＴ（On－the-Job-Training＝業務を通した教育、研修）を重視した育成を行います。	法人の人事制度と並行して、花の家独自で作成した業務管理と成長を支援する個人ファイルを活用したＯＪＴを実施している。 部署によって個人ファイルを十分に活用できているところとそうでない部署がある為、浸透に向けて更なる周知が必要と考える。	一部取り組めました。	
②－3ご利用者の人権擁護・虐待防止の観点から、研修委員会と連携しながら「不適切な支援」事例を通し「適切、適正な支援」方法を考えます。	前期中、特定の職員に人権擁護と虐待防止に関する研修を受講してもらい、後期にその周知と学習の為の研修会の開催を予定している。 虐待の手前にある「不適切支援」に関する学びについては前期中に取り組めていない。	一部取り組めました。	
③－1職位と業務内容、権限を明確にすることで、一人ひとりの職員が自分の役割と職責を理解し自主的かつ積極的な働きができ、他者への思いやりとチームワークを大切にした職員関係の構築を目指します。	（上述のように）今年度から法人の職位を明確にした新しい人事制度が導入されたことを契機に、花の家では階層別研修を導入する等の取組みを行ってきた。 従前までの仕組みではここまで職位が明確ではなかったので、今回の人事制度では改めて、職位と業務内容、職責を意識する契機になっている。 その結果については、取組みを継続、深化させる中で判断していきたいと考える。	実施できました。	
④－1健康診断のアフターフォローを確実に行います。	健康診断の実施が9月以降の為、後期以降で結果が届き次第、ｱﾌﾀｰﾌｫﾛｰが必要な職員に対し受診を勧奨する等適切な助言、指導を行っていく。	実施できませんでした（前期中の実施なし）。	
④－2職員の健康管理について、嘱託医や産業医の活用を検討していきます。	上述の通り、後期以降で健康診断やﾒﾝﾀﾙﾁｪｯｸのｱﾌﾀｰﾌｫﾛｰを実施していく。	実施できませんでした（前期中の実施なし）。	産業医の活用については法人との協議が必要な事項であり、経営会議に図って検討していく。
④－3メンタルヘルスについての取組みを行います（研修の実施等）。	新型コロナウィルス感染の影響による予算削減、集合研修の中止等の影響により、研修の実施を見送っている。 メンタルチェックの結果が届き次第、内容（結果）を勘案し、必要なら方法を工夫した上で研修の実施も検討する。	実施していません。	

⑤－1衛生、感染予防の観点から、安全衛生美化委員会と連携して、施設の衛生管理（消毒等）、手洗いやうがい、換気、３密の回避等の感染予防策を徹底します。	感染予防については、従前の手洗いや換気、消毒等の対応に加え、送迎車乗車前の検温、入館者制限、ﾌｪｲｽｶﾞｰﾄﾞ着用、事業毎のエリア分け等々、取組みを深化させながら実施してきた。 関係者全員の協力を得ることができ、事前の情報提供に基づき、早め早めの対策を行うことができ、これまで（8月後半）までのところ、感染者を出さずに事業運営できてきた。 町田市の配慮、多摩丘陵病院の協力により、7～8月にかけて、計118名のご利用者、職員に対しワクチン接種を行うことができた。	実施中。	
⑤－2防災対策の点において、実態に即した訓練や備蓄品の拡充（今年度は特に医療的ケアに関する備品の充実を図る）等、防災に向けた準備を進めます。	ご寄付で足踏み式吸引機と呼吸補助装置（ｱﾝﾋﾞｭｰﾊﾞｯｸﾞ）を頂き、足踏み式吸引機は購入分を合わせ2台配備することができた。 その他、防災備蓄倉庫の備品について、細かい物を含めて点検し直した。 後期に向けて、物品の補充を行う予定。	実施できました。	
⑤－3大規模災害を想定した宿泊訓練、ＢＣＰ（事業継続）訓練を実施します（年３回・９～１１月）。	新型コロナウィルス感染が想像以上に期間や規模が拡大していることを受け、今年度の中止を決定した。 計画は次年度にそのまま移行予定。	実施できませんでした。	
⑤－4防犯対策として、警察官を講師とした防犯研修を実施します。	後期中に研修を企画しましたが、コロナ感染拡大の為、企画が中止されました。	実施できませんでした。	感染状況を観ながら、タイミングを見計らって企画していく。

安全衛生美化委員会

①作業場や生活空間、施設全体の環境整備に努めます。
②感染症予防に努めます。
③事故時の迅速な対応と、事故件数、前年度比50％減を目指します。
④環境整備、保健衛生、事故・ひやりはっとに関する研修を実施し、職員の意識向上に努めます。
⑤医務部門と協力し、職員、スタッフ、ご利用者の健康を支援します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　日々の定期清掃の実施	各グループごと決められた箇所の清掃を行うことができました。	実施できました。	引き続き実施します。
①－２　定期的に美化DAYを設定し、普段行えない場所等の清掃を実施します。	年度内で4回、「美化デイ」と称する日程を組み、職員全体で普段行えない場所を清掃しました。	実施できました。	引き続き実施します。
①－３　加湿器や扇風機・捕虫器など、機器類の管理を徹底します。	各グループの加湿器や扇風機については、グループごと時期をみて設置するなど、適宜管理をしました。また、ホール等に設置した加湿器、捕虫器に関しては、管理する担当（日直やグループなど）を決め、適切に清掃等を実施することができました。	実施できました。	機器類が増えた際などは、管理が適正に行えるよう、その都度担当を配置します。
①－４　感染症の影響を考慮しつつ、清掃や整理整頓に関する啓蒙および指導できる範囲で行います。	靴箱や傘立ての付近にポスターを掲示し、全体で整理整頓の意識が高まるようにしました。	概ね実施できました。	研修委員会と連携し、掃除に関する研修を実施できるよう、検討します。
①－５　理美容の調整をし、月１回程度実施します。	月の最終週の月曜日にカットボラを行いました。美容師資格のある職員がカットを行い、ご利用者からの評判も良く、滞りなく実施できました。	実施できました。	引き続き実施します。また、担当職員が不在になることなどを想定し、絶え間なく行える方法を検討します。
②－１　インフルエンザ予防接種の推奨します。	職員向けのインフルエンザ予防接種を施設として行うことはできませんでしたが、予防接種への勧奨を文書等を通じて行いました。	概ね実施できました。	より効果のある勧奨方法を考えつつ、来年度も実施します。

②－２　適切な情報収集による早めの予防対策の実施と周知の徹底をします。新型コロナウイルスの動向には特に注意し、予防対策等を徹底します。	感染症予防のため、送迎乗車前の検温と日中に2回の検温を実施しました。また、空気清浄機や加湿器、CO2計測器を設置し、室内環境にも十分注意を払いました。 新型コロナウイルスの罹患者が施設内で出た際は、保健所と連携を図り、感染が広がらないよう適宜対応しました。至らない点も多々ありましたが、他の感染者が出ることはなく、結果として予防対策を活かすことができました。	概ね実施できました。	引き続き実施します。
②－３　感染症予防・対策に関する研修の実施します。また、感染症予防マニュアルの改訂と周知徹底を図ります。	手洗いや嘔吐時の対応、感染予防について研修を実施しました。感染対策マニュアルについては、周知が不十分なところもあり、職員全体に内容が行き渡らない面も見られました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	職員全体が感染予防マニュアルの内容を把握できるよう、周知方法を検討します。
②－４　ノロウィルス等感染性胃腸炎対策については、栄養部と連携したり、酸性水も活用しながら食品衛生を徹底し、予防、発生時の速やかな対処に努めます。	随時電解水を使用したこと、6月よりhaccp（食中毒などの健康被害を引き起こす可能性のある危害要因を科学的根拠に基づき管理する方法）を導入したことで、適切な衛生管理を実施しました。	実施できました。	引き続き実施します。
③－１　事故・ひやりはっと発生時の迅速な対応を行います。	事故・ひやりはっと発生時は各現場で迅速に対応しました。また、下記の計画を実施したことで、支援中の事故や、怪我を伴う大きな事故は減少しましが、送迎や調理の事故が減少しなかったこともあり、目標の事故50%減は達成できませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	事故等に対して迅速な対応をするとともに、全体的な事故減少の方法を考え、取り組みます。
③－２　事故・ひやりはっとの区別を明確化し、ひやりはっとが抽出しやすい環境を作ります。	年度当初に事故とひやりはっとの区別を文章化し、周知したことで、昨年度に比べて“ひやりはっと”の数が増え、未然の事故防止に繋がりました。	実施できました。	引き続き実施します。

③－３　月一回のグループ会議や終礼等で気づき報告、KYT（危険予知トレーニング）研修を行い、ひやりはっと等への意識を向上させ、事故を未然に防ぎます。	各グループ会議内でKYT研修を常時行いました。KYT研修を行ったことで、事故に対する意識づけが行え、支援の事故減少に繋がりました。	実施できました。	引き続き実施します。
③－４　事故ひやりはっと発生時の記録と管理を徹底し、再発防止に努めます。	事故が起こった際は担当で速やかに会議し、都度、支援ソフト等に記録の記載をしました。また、３か月後に事故のモニタリングをし、その記録の記載も徹底しました。ひやりはっとに関しては、起こったすべての内容を各グループ会議で伝え、共有理解ができるようにしました。	実施できました。	引き続き実施します。
④－１　感染症の影響を考慮しつつ、安全衛生、事故・ひやりはっと等に関する研修、職員の派遣をできる範囲で行います。	外部の研修については主にオンラインを利用し、リスクマネジメントなど安全衛生に関わる研修を随時行いました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－１　ご利用者、職員対象の健康診断（年１～２回）の実施と、アフターフォローを確実に行います。	健康診断を計画通り実施し、検査結果を把握しました。その後、再検査等のある職員に関しては声掛けをし、アフターフォローを徹底しました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－２　腰痛予防対策に関する継続的な取り組みます。（アンケート実施・腰痛ベルト支給等）	腰痛ベルトや膝・腱鞘炎サポーターの助成を行いました。また、腰痛予防PTを設け、他施設へのアンケートや昇降リフトの配置など、腰痛予防への取り組みを強化しました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－３　心身の健康に関して、相談しやすい環境を整えます。	法人全体でストレスチェックを実施して、職場環境の把握に努めました。ただ、職員同士が相談しやすい環境については、話す時間が少ないなど、積極的な取り組みが行えませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	職員同士のコミュニケーションのあり方について、検討していきます。

医療的ケア委員会

（１）目標
①医療的ケアを安全且つ適切に実施するための情報共有、検討を行います。
②職員の知識や技術の向上、育成に努めます。
③医療的ケアサービスの充実を図ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　委員会を毎月開催し、要医ケア者の体調や手技、リスク、変更事項等の確認を行います。	毎月の委員会にて、ご利用者の健康状態や手技、事故やヒヤリ等の確認をメンバー間で共有することで、日々安心、安全に医療的ケアを実践することが出来ました。	実施出来ました。	
②－１医療的ケアに関する研修を通じて、技術や知識の向上に努めます。　＜研修例＞嘱託医、訓練士等による講　　習や助言看護師によるOJT、医療的ケアや重症心身障害児者支援に関する研修、重症心身障害児者施設への実習研修ほか	感染症等の影響で外部研修の縮小や施設見学の実施が困難な時期がありましたが、近隣の医療的ケア実践施設や特別支援学校への見学を企画・実践し、情報共有や新たな視点を得ることが出来ました。	実施出来ました。	
②－２　医療的ケアに関わる職員に、研修情報の提供や勉強会への参加を促し、基礎知識から専門知識まで会得出来る様にします。	WEB研修中心にアナウンスをし、１件参加することが出来ました。世間の最新動向等の情報が得られ、医療的ケアについての多角的な視点の他にICTに関する情報も得ることが出来ました。	実施出来ました。	
②－３　東京療育ネットワーク等に参加し、医療的ケアに関する情報収集を行います。また、新たなネットワークの開拓を模索します。	感染症等の影響を鑑み、ネットワーク等への参加は控えました。また、医療的ケアや重症心身障害者支援に関する新たなネットワークについて、関係者で検討を行いました。	着手しましたが結果、が不十分でした。	ICT関連の知識を深め、ご利用者支援に活かせるよう、専門知識を有する方へのアプローチを検討し、実践します。
②－４　第３号研修受講者が同一技術の支援を維持できるよう、手技確認の基礎研修を実施します。	第3号研修受講者全員を対象とした、フォローアップ研修を実施しました。口鼻腔・気管カニューレ内吸引の手順の振り返りと演習を行うことで、基本に立ち返り、正しい手技の再確認をすることが出来たのと同時に、日頃医療的ケアに関わらない職員にとっては再確認の貴重な場となりました。	実施出来ました。	

③－１　第3号研修の書類や手続き類を整備し、関係者で共有します。	喀痰吸引等を安全・適正に実施するために、マニュアルと各手続きの整備を行い、委員会内で共有しました。	実施出来ました。	
③－２　マニュアルを整備し、周知徹底を図ります。	ご利用者の手順マニュアルは看護師が適宜更新し、関係者で情報共有しました。また、食品注入マニュアルが新たに作成されました。	実施出来ました。	
③－３　新たなケアのご要望に対して、主治医や保護者、嘱託医、他事業所等と連携し、よりよい支援を提供します。	保護者を通じて関係各所と連携を図ったり嘱託医に相談するなど、ご本人・ご家族のニーズを把握し、書類の整備等を行うことで、新たなケアを安全に実施することが出来ました。	実施出来ました。	

送迎委員会

（１）目標
①運転するすべての職員が安全に運転業務を遂行し、車輌事故0件を目指します。
②ご利用者個々の特性を理解し、車内での安全を確保します。
③送迎を利用されるご利用者のニーズに応えられるよう努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　職員全体に運転をする上での注意喚起を随時行い、事故が起こらないよう努めます。	・送迎の連絡ボードを通じて、運転時の注意点等を随時伝えましたが、昨年度よりも車輌事故件数は多くなってしまい、目標を達成することはできませんでした。 ・事故が増えたこともあり、事故時の対応や事故が起こった際の事後処理、事故時の映像などを活用し、安全運転するための研修を実施しました。	着手しましたが、結果が不十分でした。	・職員全体が安全運転の意識・技術を持ってもらえるよう、安全に運転業務を遂行するための研修を適宜行います。
①－２　新しい職員に対し運転研修や運転実施練習を行い、送迎車輌に慣れ、安全に運転が行えるよう配慮します。	新しい職員、運転手が入職した際は、慣れた職員が同乗して１ヵ月ほど、運転実施練習を随時行いました。ただ、新しい運転手の物損事故も数回見られ、技術や意識が不足している面がありました。	着手しましたが、結果が不十分でした。	・新しい職員、運転手が入職した際の練習期間を個々の運転技術に応じて判断し、安全運転が徹底できるよう努めます。

①－３　ドライブレコーダーを活用し、随時、運転状況の確認を行います。	添乗員等から危険な状況があったと話があった際は、ドライブレコーダーを確認し、その状況の把握に努めました。また、確認した上で運転手に注意喚起をし、安全運転に努めてもらえるよう配慮しました。	実施できました。	
①－４　車両の定期点検を行い、故障時には迅速に対応します。	各車両の車検、６か月・１２か月点検を実施しました。また故障等が起きた際には迅速に対応することで安全に運行することができました。	実施できました。	
①－５　万が一事故が起こってしまった際は、マニュアル通りの対応が円滑に行えるよう、運転手、添乗員への周知徹底を図ります。また、速やかに事故検証会議を行い、同じ事故が起らないようすべての職員に促します。	・事故時の連絡が不十分な点があったため、研修を通してマニュアルの確認を行いました。 ・同様の事故が起こらないよう、事故後は速やかに事故検証会議を行いました。同じ運転手の事故はほとんどありませんでしたが、バックでの事故が多く、同様の事故が数回見られました。	着手しましたが、結果が不十分でした。	
②－１　送迎時の各ご利用者のマニュアルを作成・更新し、乗車方法や乗車時間、乗車位置等、ご利用者の特性を理解して添乗業務をおこないます。	新年度が始まると同時に、各ご利用者の送迎時のマニュアルを再度確認し、ご利用者一人ひとりが安全に乗車できるよう配慮しました。送迎車内での事故は2回ほどありましたが、大きな事故には繋がらず、概ね安全に添乗業務が行えました。	概ね実施できました。	各ご利用者への配慮をさらに徹底し、車内での安全が確実に行えるようにします。
③－１　多くの方が利用できるよう乗車車両や乗車位置の調整を行います。また送迎時間の効率化に努めます。	常に乗車車両や乗車位置を検討し、乗りたいご利用者が100%乗れるよう配車しました。	実施できました。	
③－２　ご家庭の状況に合わせ、到着時間等をできる限り配慮します。	ご家庭の要望に合わせて送迎時間の調整をしました。ただ、要望の時間を見落としてしまい、ご家庭に負担を掛けてしまうことも数回見られました。	概ね実施できました。	ご家庭の要望を見落とさないよう、複数名での確認を徹底します。
③－３　感染症等の流行時期でも送迎が行えるよう、その都度より良い乗車方法を考慮し、実施します。	お迎えの際の検温、常時車内換気をして運行し、年度中は継続して送迎を行うことができました。	実施できました。	

リスク管理委員会

（１）目標
①大規模災害や防犯対策等へのリスク管理を徹底し、ご利用者、職員の安全を図ります。また、備蓄の充実、避難訓練や防災・防犯研修等を通じた職員やご利用者の防災意識の向上、関係機関や地域ネットワーク構築を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　避難訓練の想定を工夫し、実効性のある訓練を行ってまいります。	新型コロナウィルス感染予防に努めつつ、一年ぶりに施設全体での避難訓練を行った。出来る限り他エリアの人達と接触がないよう配慮をしました。	実施出来ました。	
①－２　心肺蘇生やＡＥＤ操作など応急救護訓練を実施します。	消防署に依頼をし心肺蘇生、ＡＥＤ操作など少人数の職員で訓練を行いました。	実施出来ました。	初期消火は依頼していましたが先方の手違いで行えませんでした。
①－３　不審者などへの対応を統一する防犯研修を行います。	１月に警察の方に研修をしていただく予定だったが、感染拡大により中止となりました。	実施出来ませんでした。	
①－４　大規模災害を想定した宿泊訓練を実施します。（年3回・９～１１月）	新型コロナウイルス感染予防の為、行いませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－５　事業継続計画（BCP）に基づく訓練を行います。	感染症に関する事業継続計画は作成したが、計画を利用した訓練は実施でませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－６　近隣の自治会や関係施設等との連携を図り、エリア全体で一体的に災害対策に努めます。	近隣関係機関とは訓練の共同開催の話をしたが、感染拡大の為、大人数が集まる訓練自体の実施を中止した為、実行には至りませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－７　町田市二次避難所として、町田市と連携しながら、地域貢献を図ります。	町田市二次避難所会議には出席したが、それ以上の具体的な展開は特にありませんでした。	概ね実施出来ました。	
①－８　町田市の福祉施設情報伝達訓練に参加し、災害時等における市や関係機関との連絡の強化を図ります。	計画通り、訓練に参加したが、それ以上の発展はありませんでした。	概ね実施出来ました。	
①－９　防災備蓄品について見直し、消耗や賞味期限等について管理を行います。	備蓄食料の消費（給食で提供）や期限管理、補充等は計画通り実施できました。	実施出来ました。	

①－10　防災マニュアル、災害時対応マニュアル等の周知を図ります。	防災マニュアルや災害時対応マニュアルについて周知する機会は特に設けることができませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－11　防災、防犯に関する研修会に参加して最新の情報を収集し、施設の防災対策、職員の防災教育を行います。	防災に関する情報については積極的に入手することはできませんでした。 また、防犯について警察による研修を計画したものの、感染拡大により中止となりました。	実施出来ませんでした。	
①－12　施設に合った、防犯環境対策を検討していきます。	長期期間中の敷地内への立ち入り防止を強化する為、バリカの施錠等を行いました。 １階には既に防犯カメラを設置しているが、２階部分（正面玄関、駐車場等）の導入は今年度見送っています。	概ね実施出来ました。	

研修委員会

（1）目標
①研修を通じて、職員の福祉サービスの専門性の向上を目指します。
②それぞれの職員に応じた研修情報の収集、および研修の立案を行います。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1　階層別研修、事業所全体に係る研修、有期職員を含むグループ会議内研修、入職1年未満者対象研修など、項目別に研修計画を立案・執行します。	花の家独自に策定された年間研修計画をもとに、毎月の委員会で研修管理を行いました。職員集団の支援状況や感染症等を考慮しながら、必要と思われる情報の共有が出来るよう臨機に対応しました。	実施出来ました。	
①－2　摂食委員会による摂食勉強会や医療的ケア委員会による勉強会・第3号研修とも連携しながら、職員の専門性の向上に努めます。	摂食委員会や医療的ケア委員会と連携して8月に新人職員向けの摂食研修、10月に喀痰吸引のフォローアップ研修を実施し、支援の振り返りと基本的なスキルの定着化を図ることが出来ました。	実施出来ました。	
①－3　法人が定めるe-ラーニングの活用により、全職員の基礎能力向上を図るとともに、個人ファイルを活用するなどしてOJTの強化に努めます。	e-ラーニングとディスカッションを合わせることで参加職員の学びや気づきを深めることが出来ましたが、同コンテンツの繰り返し視聴は個人の自主性に任せていたため、知識の定着化までには至りませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	新たなe-ラーニングコンテンツの活用方法について委員会内で検討し、職員への啓蒙を行います。

①－４　研修受講前に各自で課題を設定し、研修受講後にアンケート及び報告書の提出を促します。また、定めた目標のフィードバックを定期的に行えるような仕組みの定着化を図ります。	今年度から研修計画書は書面で、報告書と振り返りはQRコードを読み取りグーグルフォーム内での集約となりました。報告書が簡略化されたことで職員の業務効率が上がりましたが、振り返りについては正職会議での周知や研修委員が個別に声を掛けたり、リマインドメールを活用するなど現在も試行中で定着化までには至りませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	研修が職員個人のキャリアアップとスキルアップ、仕事へのモチベーションアップにつながるよう、管理者面談時で情報共有が出来る機会を提案します。
②－１　研修情報を収集したうえで、職員一人ひとりの職種や経験年数・配属部署等に応じた情報提供を行い、参加を促します。	年間計画で決められた外部研修以外に、個々の職員がどのような希望を持っているか聞き取りをしながら参加を促しました。また、自主的に研修を探して受講する職員の姿も見られました。	実施出来ました。	
②－２　外部研修への参加後に、事業所内にて報告会を持つことで、参加職員の学習理解を深める機会とするとともに、他職員にも知識理解を得る場として活用します。	コロナ等感染症と人権・虐待防止に関する研修は、報告研修を企画し、情報共有を行いました。各グループ会議内で身体拘束の体験を（抑制）することで、職員間で新たな価値観を得ることが出来ました。	実施出来ました。	

広報委員会

（１）目標
①法人で発行する広報誌の紙面、ホームページ等を利用し、花の家の活動を広く地域に向けて周知をします。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　年４回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新されるホームページを利用し、花の家で行っている諸活動について、広く地域に向けて発信します。	広報誌については、特集や時宜に叶った内容で記事を掲載できました。 ホームページの活用については、適宜報告を行ったが、定期的な掲載には至りませんでした。	概ね実施できました。	ホームページ記事の更新については、時期を決めて行うようにする。

2021年度 花の郷　年間総括

部門別年間総括

1．支援部門

【全体】

（1）　目標
①　支援者はプロとしての意識を持ち、専門職としての知識、技術の向上、ご利用者個々の障がい特性を理解する取り組みを行います。
②　ご利用者の思いに寄り添った、安心・安全な支援を行い、豊かで幸せな時間を過ごせるようにします。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1　言語聴覚士、理学療法士、臨床心理士の専門職からアドバイスを頂き、ご利用者に寄り添った質の高い支援につなげます。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止になったり、実施の制限がある中で、ご利用者に寄り添った支援の提供につなげました。	概ね実施できました。	新型コロナウイルスの感染状況により、日程を変更することがありました。また対象のご利用者が休みの場合に備え、事前にビデオ撮影するなどして相談ができるように準備が必要。
②－1　ご利用者の気持ちやニーズを大切にし、一人ひとりのペースを大切にした活動を提供します。	感染防止の観点から、密を避けた新しい生活様式の中で、ご利用者のペースを大事にした取り組みを実践しました。	概ね実施できました。	継続していきます。
②－2　一人ひとりのペース、方法を大切にした集団生活の支援を展開していきます。	新しい生活様式では、密を避けるため大きな集団生活は避けました。その中で、一人ひとりのペースを大事にしました。	概ね実施できました。	継続していきます。
②－3　年度内に1回はご利用者面談を行い、ご要望をお聞きして、より良い支援につなげます。（翌年度に向けての面談を２月、３月に希望を取り、ご希望の方は設定します）	今回はの面談は中止し、全ご利用者にアセスメントシートを配布して、目標や要望を確認しました。要望があるご利用者には、電話にて面談を行いました。	概ね実施できました。	感染状況に応じて、ライン、電話での面談を実施していきます。
②－4　ご利用者の活動内容をご家族に見学していただく場の設定を行います。	感染拡大防止のため、中止しました。	着手できませんでした。	次年度は、感染状況で次第で実施するか検討。
②－5　活動部屋の有効活用をプロジェクトチームで検討します。	感染拡大防止のため、検討会議を実施出来ませんでした。	着手できませんでした。	次年度は、凍結。 体制が整い次第で検討。
②－6　浴室及び脱衣所の有効活用をプロジェクトチームで検討します。	感染拡大防止のため、検討会議を実施出来ませんでした。	着手できませんでした。	次年度は、凍結。 体制が整い次第で検討。

②－７　ヘアカットにかんしてプロジェクトチームで検討します。	感染拡大防止のため、検討会議を実施出来ませんでした。	着手できませんでした。	次年度は、凍結。 体制が整い次第で検討。
②－８　感染症対策に向けた取り組みとして、密を避けた活動の提供に配慮します。（手洗い、うがい、フェイスシールド着用、換気など）。	適宜、安全衛生会議を設定しますした。 出勤時の手洗い、うがいなどの徹底しました。	概ね実施できました。	継続していきます。

【Ａグループ】

（１）　目標
①　安全・安心して過ごせるよう支援します。
②　心身の健康に配慮します。
③　一人ひとりのニーズやペースに合わせた活動の提供を目指します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ご利用者一人ひとりに応じた支援を行い、安心・安全・安定した活動を提供します。	ご利用者一人ひとりに合わせた支援を行いました。状況に応じて、じっくりとお話を聞いたり、個別での対応を行うことで、安心・安全に過ごすことが出来ました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２　支援者間で支援方法の共有をし、グループ全体で安全・安心な環境作りに努めます。	グループ日誌や会議資料、カンファレンスを通して、支援方法の共有をし、安全・安心な環境づくりに努めました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－３　心の動きに配慮し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行います。ホール・グループ室を活用し、状況に応じて個別での支援や、少人数の支援を行ない、安心して過ごせられるようにします。	ご利用者の心の動きに配慮したり、個々のニーズを汲み取り、活動設定をしました。ホールとグループ室を活用して、状況に応じて少人数での支援を行いました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１日々の生活（活動）の中で、看護師、ご家庭、グループホームと連携を図りながら健康の維持・増進に努めます。	体調に変化があった場合は、速やかに医務に報告し、ご家庭・グループホームと情報共有しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－２　基礎代謝を高める活動を行ない、健康の増進に努めます。	園芸・散歩・ムーブメントなど、体を動かす活動や足湯を設定し、基礎代謝を高めました。特に散歩時は、ご利用者それぞれの歩行ペースを考え、少人数や、個別で実施しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

③－１　一人ひとりの自主的な行動や発言を受け止め、可能性・経験の広がりに繋がるよう支援します。	活動の中で、ご利用者の自主的な行動や発言が引き出せるよう支援しました。また、生産活動、花の郷通信でのご利用者の関わりを増やし、可能性が広がるよう支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます
③－２　ご利用者が楽しく、達成感を得られるような活動の提供を行ないます。	グループごとの活動設定のため、２つの活動を設定することで、ご利用者が楽しく活動参加できるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます
③－３　納品、買い物などの活動を通してご利用者の社会とのつながりを大事に支援します。	感染症対策から、納品・買い物等の設定は出来ませんでした。	着手できませんでした。	感染症の状況をみながら、引き続き継続していきます。

【Bグループ】

（１）　目標
①　一人ひとりのニーズに合わせた活動提供をします。
②　安全に楽しく食事ができるよう工夫します。
③　心と体の健康維持を図ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　生産活動や療育的活動の中で、個々の強みを活かした活動設定をします。	個々の能力に合わせてパッキン以外にもパックはがし、シール貼り、箱の組み立てを実施しました。ムーブメントはエアトランポリンの他にブランコを実施しました。初めは緊張する様子が多く見られましたが回数を重ねるごとに笑顔が多くなり、楽しまれる姿が見られました。	実施できました。	引き続き生産・療育両方の活動の中で、ご利用者ができることを模索し、得意なことを伸ばす内容にします。
①－２　納品や販売等に積極的に参加し、社会との繋がりを大切にします。	新型コロナウイルスの影響で販売の実施ができませんでした。納品は車内で待機での参加をしました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	新型コロナウイルスの感染状況など見ながら実施します。
①－３　余暇の一環として外出を設定し、自ら選択する、購入する、金銭のやりとりを行う等の機会を提供します。	新型コロナウイルスの影響で実施することができませんでした。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況など見ながら実施します。
②－１　摂食に関しての知識を共有し、一人ひとりに合った食事支援を行います。	日々グループの職員全員が摂食支援（口腔周辺のマッサージやレンゲのみ、かじりとりなど）に取り組みました。STカンファレンスではご利用者の評価の確認、摂食支援の確認を行いました。	実施できました。	引き続き日々の支援の中で摂食支援にも取り組んでいきます。

③－１　安定して過ごせるように、その日の体調や気持ちに合わせた支援を行います。	連絡帳の記載やご本人の様子を見ながら、その日の体調や気持ちに合わせて活動設定を行いました。	実施できました。	引き続き体調や気持ちに合わせた活動調整を行います。
③－２　てんかん発作や体調不良時は、看護師やご家庭、ホームと相談しながら迅速且つ適切に対応します。	発作時は安全に注意して対応しました。また体調不良やけがを確認した時には場合によっては看護師に相談し、連携して対応しました。	実施できました。	引き続き発作、体調不良時は適切に対応します。

【Cグループ】

（１）　目標
①　ご利用者が安全・安心して過ごせる環境を整えます。
②　自発的な行動や意欲を高めるために、充実した活動を提供します。
③　安全に楽しく食事ができるような環境作りをします。
④　一人ひとりの健康維持を支援します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　支援者間で情報の共有やヒヤリハットを活用し、グループ全体で安全・安心な環境作りに努めます。	転倒事故、他害事故等が起きましたが、原因を分析し、話し合い、共有し、実践し再発防止に努め、安全安心な環境づくりに努めました。ヒヤリハットも共有しました。	概ね実施できました。	ヒヤリハットの活用しやすい環境作り、事故防止の為の更なる職員意識の向上。
②－１　ご利用者の個々のニーズに合わせた活動を設定し、一緒に取り組み、達成感や喜びを感じられるよう支援します。	ご利用者の精神面、体調に合わせて活動を設定しました。	概ね実施できました。	ご利用者にあった更なる活動の工夫。
③－１　個々に合わせた摂食方法を行えるよう勉強会等で摂食に関する職員の知識を深めます。	トロミのつけ方や特性について資料を配布し、理解を深めました。STの評価を受け、アドバイスを取り入れました。	概ね実施できました。	過敏の除去についての継続、記録について。
④－１　体の取り組みや散歩をを定期的に実施し、心身ともに健康維持を図ります。	散歩は定期的に実施できました。定期的にPTへ相談することができ、体の取り組みや姿勢、椅子などそれぞれの状態にあった支援ができました。	概ね実施できました。	身体の取り組みを行う時間、人手の工夫。
④－２　ご利用者の様子観察を行い、健康状態や様子の変化の把握に努めます。また、看護師との連携を図り適切な対応をします。	連絡帳を通して体調を把握し、日中で気になる事については支援者間で共有し、検温や活動調整で対応しました。また、医務と連携を図り早期に発見、対応ができました。	概ね実施できました。	医務、他グループへの更なる情報発信、共有。

【Ｅグループ】

（１）　目標
①　障がい特性を理解し、健康面に配慮をします。
②　安全で楽しい食事を提供します。
③　充実した活動を提供します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　一人ひとりの体調に合わせた生活ペースを大切にします。	ご利用者個人の意思や体調、ペースを尊重しながら、無理のない範囲で集団生活を送れるように配慮しました。	実施できました。	安全性の確保、より快適なスペースの確保について考えていきます。
①－２　看護師と連携し、認定特定行為業務従事者が安全な医療的ケアを実施します。	口鼻腔吸引、胃瘻、経鼻胃管などの医療的ケアに関して、第三号研修を実施し、看護師と協力して安全に配慮した医療的ケアを行いました。 また、カニューレフリーの気管切開部の吸引も看護師のもと支援職員も安全に実施しています。	実施できました。	第三号研修を経験し、他グループに異動になった職員であっても、引き続き定期的に、積極的に医療的ケア者との関わりをもち、看護師と連携しながら、添乗、フォロー等に入れるようにしたいと考えます。
①－３　体調の変化や緊急時には保護者、看護師と素早く連携を図ります。	体調変化があった時や新型コロナウイルスの疑いなど、緊急時には保護者、看護師と連携を取り合いました。	実施できました。	継続します。
②－１　安全に楽しく食事できるよう支援します。	決まった時間に食事をし、和気あいあいとした雰囲気のなかで食事を行いました。	実施できました。	ご利用者を交えた内容の会話を心掛けていきます。
③－１　ムーブメントや音楽、スヌーズレンなど感覚を刺激する活動を大切にします。	ムーブメントではボールプール、ブランコ、トランポリン、サーキット、陣取り等様々な取り組みを行いました。朗読では沢山の本を読みました。朝顔やマリーゴールドの摘み取り等ガーデニングも行いました。	実施できました。	よりご利用者に楽しんで頂ける療育的活動を検討していきます。
③－２　常に活動の工夫をしながら安全に楽しく参加できるようにしたり、外出や季節感のある行事を通し、豊かな時間を過ごせるようにします。	レクリエーションではご利用者がより関わりやすく楽しめる工夫をしました。	実施できました。	ご利用者に楽しんで頂く活動を検討していきます。

【Ｆグループ】

（１）　目標
①　一人ひとりの体調に配慮し、安心した生活を目指します。
②　おいしく、安全に食事をします。
③　一人ひとりのニーズに合わせ様々な活動を設定し、充実した時間を過ごします。
④　たくさんの人との関わりを楽しみ、人間関係を広げます。
⑤　一人ひとりの生活状況に合わせた自立のサポートをします。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ご家庭と連携し、看護師と相談しながら全職員で安心して生活できる環境を作ります。	連絡帳等でご家庭と情報を共有し看護師と連携を取りながらグループ職員全体で排便やその日のコンディションを確認し支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２　一人一人のペースで無理なく過ごせるよう支援します。	ご本人の体調を確認し、相談しながら活動を設定しました。体調の悪い時にはゆっくり過ごせるスペースを作り安心して過ごせるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－３　看護師と連携し、認定特定従事者や特例実施者が安全な医療的ケアを実施します。	認定特定従事者及び特例実施者による吸引、注入、及び酸素ボンベ交換、てんかん発作時の座薬挿入等を行いました。必要に応じ、看護師による研修、手技の確認を行い安全に実施できるよう努めました。ご利用者の様子がいつもと違う時には、看護師と状況を共有し実施についての判断をしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１　一人一人の摂食機能に合った食事を提供します。	摂食評価をもとに、ご利用者の持つ食べる力を大切にした支援を心掛けました。好きなメニュー、食べやすさや食べにくさなど、ご利用者の食べ方の特徴をグループ職員間で共有し、おいしく安全な支援を行いました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－２　意欲的に召し上がっていただけるような環境を作ります	ご利用者の食べることへの意欲や嗜好の違いを理解し一人一人のニーズに合った食事介助を行いました。食事の時間にとれるコミュニケーションを大切に日々の様子やいつもと違った様子が見られたときは職員間で周知し安心して食事をしていただけるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

②－３　安全に召し上がっていただくための方法を考えます。食べ方や飲み込み方の変化などを職員全体共有していきます。	食事の姿勢や体調の合わせた食事提供など、その都度考え、職員間で周知しました。	概ね実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－４　定期的に摂食の様子を評価し、一人ひとりの食べる力を理解し、適切な支援を行います。	今年度は、ご利用者の評価を行ない、書面にて職員間で周知しました。また、日々の介助の中で気になることはすぐに職員で周知しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	今後も引き続き継続していきます。
③－１　一人ひとりのニーズや興味に合った活動を設定します。	興味や得意なことを理解し一人一人の力が発揮できるように活動や作業を設定しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－２　楽しく充実した活動を工夫し支援します。	密にならないように注意しながらご利用者が楽しめるよう活動を工夫しながら設定しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－３　生産活動に取り組み、働くことの楽しさや喜びを感じられるよう支援します。	コロナの影響で悠々園の納品ができない時期が多く、代わりに消毒用のキッチンペーパーを作るお手伝いをしたり、草木染の和紙を切ったりと新しいことにチャレンジしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－４　嬉しい気持ちや期待する気持ち、「ドキドキ」「わくわく」することを大切にし、豊かな生活づくりをします。	今年度外出ができなかったため月に一度デリバリーランチの際に調理レクを行いみんなで調理を楽しみました。時にはデザートを用意しスイーツを楽しんでいただきました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	ゆとりのある活動設定の中で、体調に配慮しながらも、参加できるような活動も設定していきます。
④－１　活動を通して、いろいろな人との関わりを楽しめるよう支援します。	コロナの影響でグループごとやフロアーでの活動が多かったですが限られた中でいろいろな職員やご利用者同士が交流出来るよう工夫しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	今後も引き続き継続していきます。
④－２　地域交流活動を通して、地域の方との交流を深めます。	コロナの影響で設定できませんでした。	着手できませんでした。	体調に配慮することが優先され、外活動や交流、納品等は参加できるご利用者が限られていました。体調の良い時に、外活動への参加ができるよう、体制を整えます。
⑤－１　一人一人の出来る力を大切に、出来ることを少しずつ増やし自信につながるよう支援します。	活動を通して、できる作業を増やし、その都度褒める声掛けをし、自信に繋がるよう支援しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

⑤－２　必要に応じ、面談やカンファレンスを設定します。また、関係機関との連携を図り、地域生活を支援します。	今年度ご家庭とは、アセスメントシートでニーズなどの聞き取りを行ないました。面談希望とりましたが、FGは希望はありませんでした。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

２．生産活動部門
【クッキー】

（１）　目標
①　新型コロナウイルスの感染状況に応じた販売、納品を設定し、地域社会とのつながりを広げていきます。
②　品質の向上、新製品の開発により花の郷ブランドの向上を目指します。
③　花の家と連携を図り委託販売、イベントへの参加など協力しあい販売を促進します。
④　クッキー工房の環境を整え、多くのご利用者の作業参加を目指します。
⑤　年間売り上げ300万円を目指します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　新型コロナウイルスの感染状況に応じて、販売、納品の設定を検討し、ご利用者が関われるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、ご利用者が販売、納品に関わることはありませんでした。今年は株式会社スリーパンズに委託販売し、町田マルイ、東急青葉台に出店しました。	概ね実施できました。	感染状況に応じて販売を検討する。
②－１　マニュアルを整備し、入室前の準備を周知・徹底し、衛生的に作業に臨みます。	入室前の準備は周知できている。	実施できました。	今後も、積極的に設定してきます。
②－２　工房の内の環境整備を行い、異物混入がないようにします。	環境は整備されており、異物の混入はなかった。	実施できました。	引き続き、衛生的に作業設定できるよう、環境を整えます。
②－３　ご利用者の意見やお客様の声を大切にし、品質の向上に努めます。	委託販売の際、商品のシールを変更しました。	概ね実施できました。	販売状況や、商品の品質を考慮し、おいしいクッキーを提供できるよう努めます。
②－４　花の郷通信やホームページを活用し、クッキーに関する情報を発信しクッキー作業の意欲を高めます。	ホームページの活用はできなかった。通信の設定がなかったため、宣伝はできなかった。委託販売では、ポスターを掲示し、購入したお客様からの問い合わせが多かった。	概ね実施できました。	ホームページを活用する。 施設の外の掲示板のポスターを作成する。作業風景などのご利用者の写真の同意をとり、地域に宣伝する。

③－１　花の家やクッカと協力し、祭りや出張販売を通して販売促進に努めます。	株式会社スリーパンズに委託販売し、町田マルイ店に9日間出店しました。	実施できました。	引き続き、委託販売を利用していきます。
④－１　車椅子やベットで入室できる環境を整え、希望者は工房内の作業に参加します。	車椅子ご利用者が入室する際は、タイヤを拭いて入室しました。ベットを入れてでの作業は実施できませんでした。	実施できました。	ベットを入れて、作業設定ができるようにします。
④－２　ご利用者が主体的に作業参加出来る作業方法、環境を整えます。	Aグループを中心に、新しくクッキー作業に関わるご利用者や職員が増えた。	概ね実施できました。	他のグループのご利用者や職員が作業に関われるようマニュアル整備します。
⑤－１　納品先や販売先と連絡をとりあい、関係性を築きます。	定期的にしずく整骨治療院へクッキーを納品することになった。またお客様からメールで問い合わせがあり、振込先などのやりとりをすることが数件あった。	実施できました。	メールでの問い合わせや現金の振り込みでの支払いの依頼が増えている。メールを見逃さないよう、確認が必要。
⑤－２　新型コロナウイルスの感染状況に応じて、年間イベント出店担当者を決めて販売活動に参加します。	新型コロナウイルス感染予防他のため、実施できなかった。	着手できませんでした。	感染状況に応じて販売を検討する。
⑤－３花の郷通信、ホームページ、ちらし等を利用し、クッキーに関する情報を発信します。	通信の設定がありませんでした。ハロウィンクッキーなどイベント用のクッキーは大量注文が予想されるため、事前にチラシで宣伝をしました。	概ね実施できました。	イベントクッキーはチラシを配布する。

【動物用クッキー】

（１）　目標
①　誰もが参加出来る環境を整え、一人ひとりが力を発揮できるよう作業設定を行います。
②　動物用クッキーの宣伝活動を行い、地域に根ざした活動を展開します。
③　年間売り上げ3万円を目指し、安全な商品を提供します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　活動時間や参加人数は、一人ひとりのご利用者の特性を理解した上で最適な設定・配置をします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定の時間、場所を確保が難しい。

①－２　道具や環境、身だしなみを整え、安全で衛生的な活動を提供します。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	
①－３　作業行程を細分化し、一人ひとりのニーズに合わせてそれぞれの得意なことを活かした作業を設定します。 （生地作り、型抜き、袋詰め、買い物、パソコンでのポスターやラベル作りラベルのスタンプ押し等）	設定できませんでした。	着手できませんでした。	
②－１　定期的なテラス販売、花の家の納品を設定し、ご利用者が関われるようにします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定を確保する。
③－１　計画的な活動設定を行い、安定した生産・販売を行います。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	計画的な活動設定、活動場所を設定します。
③－２　動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）、食品表示法に基づき、商品のラベルの作成、品質管理に努めます。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	

【草木染】

（１）　目標
①　ご利用者の作業意欲や持っている力を引き出せるよう支援します。
②　植物採集を通して五感に働きかけます。
③　販売を実施し社会参加を支援します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１紙すきや紙の染色、紙パッキンや紙ちぎりなど、様々な作業を行うことで個々のニーズに対応し作業意欲を高めます	各グループが紙すき、染色、パッキンを取り組むことができました。	概ね実施できました。	
①－2ちぎる、すくう、押す、伸ばす、叩く、はがすといった作業工程を通じてご利用者のもっている力が発揮できるよう支援します。	作業工程を細分化しご利用者ができる作業から実施していくことで、作業能力を引き出すことができました。	実施できました。	

②－１　植物を採集することで四季折々の草花に触れ、観たり匂いをかぐことで様々な感覚に働きかけます。	植物の採集をし、押し花や草木染めに使用しました。花を植えることで、定期的に押し花の材料を確保できたとともに感覚を養うことができました。	実施できました。	定期的な花の採集、年間を通したに草花の栽培を行っていきます。
③－１　ご利用者、購入者ともに満足のいく製品を作製し、社会参加意識と売上げ向上につながる支援を行います。	新型コロナウイルスの影響のため、販売は実施しませんでした。	着手できませんでした。	

【園芸】

（１）　目標
①　作業を通して、運動量の確保、健康の増進に努めます。
②　他の生産活動との連携を図り、生産活動全体の収入増を目指します。
③　花の郷敷地内の土地の有効活用ができるよう思案します

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ご利用者のニーズ、能力に合せた作業提供を行います。	ご利用者のニーズ、能力、健康状態に合わせ畑作業、室内（作業棟）作業を行いました。夏場の暑さ、冬場の寒さ、雨天等、天候や気候に考慮し、作業設定しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２　土運びや土ふるい等、体を動かす活動を行います。	土づくりや土ふるいなど、体を動かす活動を設定し、ご利用者の運動量の確保に努めました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１　クッキーに使う野菜の栽培、ペパーミントの管理をします。	クッキーに使用する野菜の栽培をしました。今年度は落花生、サツマイモを栽培しクッキーに使用しました。ペパーミントは、夏場は露地で冬場は衣装ケースで、簡易栽培を実施しました。また、イチジクの剪定を行うことで、害虫予防や果実を安定して収穫を行うとができました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－１　作業棟が園芸作業だけでなく、他の活動や会議に使用できるよう、清潔な環境を維持します。	定期的に作業棟内を掃き掃除などを行うことで、清潔な環境を整えることができました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

③－２　花の郷内の敷地内の土地を有効活用し野菜の栽培などを行い園芸収入アップとご利用者の豊かな生活に繋がるよう、年間を通して活用を試みます。	限られた敷地を有効活用し野菜を栽培することができました。今年度も昨年度以上の収益を上げることに成功しました。またご利用者へ収穫の喜びを得ることができるよう、農繁期に収穫できる作物を多く栽培することで、収穫の楽しさを感じる機会を多く提供できました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

３．医務部門

（１）　目標
①　ご利用者と支援の安全に配慮した環境を整えます。
②　ご利用者の個性を考慮した専門職との連携を強化します。
③　指導看護師として医療的ケアの安全な実施を継続します。
④　ご利用者の口腔衛生環境 向上に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　健康にかかわる情報を中心に支援職員と共有します。	医療的ケア、医療処置に関わる看護職員以外は、可能な限り各グループに入り、日々の健康観察や、健康ニーズを把握し、職員と共有できるようにしました。看護職員の配置に偏りがないよう、シフトで看護師配置を管理しました。	実施できました。	各グループ管理に関わる事項では、服薬方法等基本を遵守した上で、グループの工夫を加えていくよう、支援・介護の基本や、感染症対策に目を向け、ご利用者の支援をより安全にする役割を看護職員も担っていることを共有します。⇒NS会議設定
①－２　緊急時、災害時等、日常的な生活を想定した施設の環境を整えていきます。	預かり薬や医療的ケアに関わる備品、感染症対策備品の管理を継続しました。移送・搬送備品を定期的に整備しました。	実施できました。	備品リストを修正し、緊急時・災害時に関わる事項は看護職員全員が点検、管理できるようにします。⇒NS会議設定
①－３　備品の整備及び使用環境、体の取り組みを充実させる環境を整えます。	職員腰痛予防及び感染症対策として、トイレやリネンの物品配置を支援職員と整備し、導線短縮とご利用者の安全を確保できるようにしました。介護用品の管理について正しい使用方法等を引き継ぎました。体の取り組み備品の定期点検をしました。	実施できました。	介護用品のメンテナンス及び、正しい使い方について、看護師を介さず使用継続できるよう引継ぐ環境を整えます。

②－１　専門職との関わり方、支援成果を会議・記録で共有します。	各専門職からの助言を支援に反映できるよう、支援職員が中心に実施できるよう協力しました。また、ニーズの把握に努めました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	コロナ禍、カンファレンスに代わる学びや情報共有が担当者の負担にならないよう、まずは看護職員全員の専門性を高めます。⇒NS会議設定
②－２　からだの仕組み、健康観察及び支援について学ぶ機会を作ります。	脳性まひの特性や行動障害等、ご利用者の個性から、生活しづらさに関わるニーズを見つけることの困難さを共有できました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	二次障がい、障がい特性に関わる知識の共有が必要と考えます。体マップを作成します。⇒看護師会議
③－１　指導看護師として計画的に実地研修を行います。	①演習②実地研修とチェックリストを分けて活用し、今までより多く技術習得に向けて看護師が関われる環境を作りました。各グループ職員の協力を得ながら、未取得者への実地研修が実施できました。 実地研修をする前に、自主的に支援職員がシュミレーターで練習できる環境を作りました。	実施できました。	日々変化のあるご利用者の医療的ケア内容に対応できるよう継続します。また、一定期間、認定特定行為業務を実施した職員が、花の郷内で部署が変わっても、その手技が継続できる環境を見直します。
③－２　認定特定行為業務従事者の業務継続が安全に実施できる環境を見直します。	対象ご利用者全ての医療的ケアについて、全認定特定行為業務従事者が研修をし直すスケジュールは、通常業務の中では困難でした。そこを踏まえ、後期に認定特定行為業務継続マニュアルを改訂しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	認定特定行為業務従事者研修の対象者を分け、集合研修としてスケジュール化します。
③－３日々安心した医療的ケアの支援ができるよう情報を共有します。	コロナ感染対策として会議が書類化される中、現状を見なければ理解しずらいことをピックアップし、直接支援者１人１人に引き継ぐ方法で共有しました。看護師勉強ノートで医療的ケア情報を共有しました。	実施できました。	看護職員の通常業務として、計画からは削除します。
④－１　口腔ケアに関する啓蒙活動及び支援環境整備を継続します。	口腔ケアに関するアンケート（○×クイズ等）を実施し、情報を医務室前に掲示しました。そこで、正しい支援方法を学ぶ機会を作りました。	実施できました。	感染症対策の視点で、口腔ケアの重要性をアピールします。
④－２　個別性に配慮した口腔ケアを強化します。	歯科検診や受診の結果をもとに、磨き方の工夫や過敏性に考慮した口腔ケアについて支援職員と共有し、必要な情報はご家庭にお伝えしました。	実施できました。	個別マニュアルに反映できるよう啓蒙します。

④－３　口腔ケアが心身にどのような影響を及ぼすか情報を共有します。	看護師勉強ノートで情報を共有しました。ご利用者の体調不安サインに口腔内のトラブルの可能性があることを共有しました。	実施できました。	感染症対策の視点で、口腔ケアの重要性をアピールします。

４．栄養部門

（１）　目標
①　季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、ご利用者の嗜好の反映等により美味しくて飽き　のこない食事の提供に努めます。
②　ご利用者個人にあわせた食物形態（形態食）での食事の提供に努めます。
③　食事環境の整備、職員の衛生の徹底を図り、衛生的で安全な食事を提供します。
④　ご利用者一人ひとりに快適な食事時間を設定し、ご利用者に適切な支援を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　季節の食材の使用や行事食を取りいれ、季節の感じられる食事を提供します。	野菜、魚、果物など旬の食材を使用した献立を意識しました。また、季節行事に合わせてこどもの日やハロウィン、クリスマスなどのメニューを献立に反映しました。	実施できました。	
①－２　嗜好調査（5月・11月）残食調査（8月・2月）を実施します。	・残食調査 ８月２３日～８月２７日 ３月７日～３月１１日 ・嗜好調査 5月２４日～５月２８日 １１月８日～１１月１２日 に実施しご利用者の嗜好の把握や献立メニューに反映しました。	実施できました。	
①－３　献立会議を実施し、献立や食事内容の改善を行います。	花の郷栄養部門でその都度献立についての話し合い、改善を行いました。	概ね実施できました。	
①－４　リクエスト給食・保護者向けの給食試食会を実施します。	リクエスト給食は前期各グループご利用者に、昼食時に食べたいメニューなどアンケートを取り、献立に反映させました。	実施できました。	
②－１　個人個人にあった食物形態の食事の提供をします。［形態食（初期・中期・後期）普通食・アレルギー食・〇〇なし食・ダイエット食］	食札を使用してご利用者個々に合わせた食形態食やアレルギー食など間違えが無いように対応しました。	概ね実施できました。	

②－２　ニーズに応じた治療食の提供をします。	治療食の必要のあるご利用者については個別に作業指示書を作成し、ご利用者に合った栄養管理を実施しました。	実施できました。	
③－１　できるだけ配膳時間ぎりぎりの盛り付けや、保温性のある食缶の使用、電子レンジを活用し適温食事の提供をします。	１１：３０検食、１１：４５配膳１２：００喫食というように厨房と支援職員と協力しながら適温食事の提供を行いました。	実施できました。	
③－２　食中毒の予防を徹底し、安心して食べられる食事を提供します。	細菌検査、手洗いの徹底、中心温度測定、消毒、マスクの着用などを行い食中毒予防に努め安心して食べられる食事を提供しました。	実施できました。	
③－３　毎月1回の細菌検査を実施します。	毎月１回細菌検査を実施しました。６，７，８月は食中毒のリスクが高いため２回実施しています。	実施できました。	
③－４　中心温度の測定を行います。	毎回中心温度85度を90秒測定し食中毒の予防に努めました。	実施できました。	
③－５　手洗い後のペーパータオルの使用・電解水又は消毒液での消毒、使い捨てマスクの使用等、衛生面について徹底して行います。	徹底することができました。	実施できました。	
③－６　調理器具等の消毒を徹底して行います。	徹底することができました。	実施できました。	
③－７　日常的な清掃（床、下水、冷蔵庫、トイレ他）と定期的な清掃（換気扇）を行い、厨房内を衛生的に保ちます。	毎日の清掃、業者による清掃、年末の清掃など実施することができました。	実施できました。	
③－８　調理従事者の衛生教育等を行います。	ハサップに準じた形の衛生管理を実施しました。	実施できました。	
④－１　食事中の訪問やアンケートの実施、必要に応じて支援職員と連絡を取り合い、喫食状況の把握に努めます。	日々の検食を通して常食や形態食が適切に提供でき、ご利用者が安全安心おいしく召し上がれる喫食状況の確認を行いました。	実施できました。	
④－２　各グループと協力し、よりよい食事時間・食事環境を整えます。	栄養部門からご利用者の喫食の様子確認をしてもらい、ご利用者の喫食状況や食事環境を実際に把握することができました。	実施できました。	

委員会年間総括
１．虐待防止委員会

（１）　目標
①　虐待防止や身体拘束廃止に取り組みます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組みます。	虐待防止責任者を施設長とし、毎月虐待防止委員会の開催を行い、ご利用者の呼称ポスターの作製や職員会議資料にて虐待防止の啓蒙を実施しました。虐待防止委員会の中で身体拘束についての適正化に向けた検討を実施することができました。また、支援主任に虐待防止研修や強度行動障害支援者養成研修を受講してもらい、職員会議のケースカンファレンスに生かしました。	実施できました。	
①－２　毎月最終火曜日に虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います	副施設長中心に虐待防止チェックリストの配布集計、ケアカルテへの身体拘束の状況入力を行いました。	実施できました。	
①－３　虐待防止アンケートを実施し職員全体に虐待防止に関わる啓蒙活動を行います。	チェックリストを実施し、３年分の意識の高まったところ下がったところをまとめ、職員会議資料として配布し啓蒙活動に繋げました。	概ね実施できました。	
①－４　１２月、２月にグループ会議で虐待に関するケースカンファレンスを行います。	１２月に虐待ケースカンファレンスを実施しました。２月は新型コロナウイルス対応でケースカンファレンスの延期をしています。	概ね実施できました。	
①-5　会議録等は法令順守責任者である理事長へ報告をします。	会議録をデーターで所定のフォルダーに入れ理事長時報告しました。	実施できました。	

２．安全衛生委員会

（１）　目標
①　ご利用者・職員の安全及び衛生のための教育を実施します。
②　ご利用者・職員の健康の保持増進のための措置を行います。
③　施設内の重大事故を未然に防ぐ事故防止に努めます。
④　ご利用者・職員が快適に過ごせる施設環境を整えます。
⑤　感染症対策を徹底し、感染予防に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　毎月定例の安全衛生委員会を開催し、利用者・職員の安全衛生及びひやりはっと事故防止に向けた取り組みを行うとともに緊急の課題（インフルエンザ対応など）が発生した場合はただちに対処します。	ご利用者、職員の状況確認を必ず行い、必要があれば個別に面接相談をするなどの対応をしました。また、新型コロナウイルスに関する施設における感染症防止対策を作成し、実施しました。また、ケースごとに随時対応を検討、実施しました。	実施できました。	BCPの作成をしていきます。
①－２　研修会、会議（感染症、事故防止、対策（年２回）、腰痛、車いす操作）の定期開催のほか、職場のニーズに応じた学びの場を作ります。	Eラーニングを使用した腰痛予防研修や安全衛生研修（吐物処理研修）を実施しました。	概ね実施できました。	
①－３　職員が安全安心して働ける労働環境の整備をします。	看護主任を中心に職員の相談、アドバイスを行いました。また、安全衛生委員会で検討が必要なケースについては随時検討、確認を行いました。	実施できました。	
②－１　嘱託医と連携を取って安全・衛生面の向上に努めます。	月１回の定期健診や医療支援の相談等その都度連絡をとり、安全に安心してご利用者が花の郷をご利用いただけるように努めました。	実施できました。	
③－１　施設内での事故及びひやりはっとについて検証し、原因及び再発防止に努めます。	毎月月締めで月ごとのひやりはっとの確認を行い、情報の共有を図ることができました。また、ドライブレコーダーによる事故検証及び事故防止の啓蒙を行うことができました。	概ね実施できました。	
④－１　施設内の安全、快適な環境整備について維持し更に改善します。	各事故検証会議において事故の原因再発予防に努めました。また、事故が多いときは職員会議資料にて事故防止の啓蒙を行いました。	実施できました。	

④－２　事故につながる前のひやりはっとについて職員に意識してもらうように啓蒙し、用紙に記入,分析したものを集計し、事故防止につなげます。	ヒヤリハットの件数が減少傾向にある際は各部署に再アナウンスし、職員に意識を持ってもらうように努めました。	実施できました。	
⑤-１感染症対策を随時検討し、対応していきます。	施設における感染防止対策の徹底を行いました。緊急事態宣言や蔓延防止措置等の発令や感染状況に合わせてご利用者の活動や会議の設定など検討し対応しました。	実施できました。	

３．医療的ケア委員会

（１）　目標
①　医療的ケアを適切に行うために委員会運営を行います。
②　実施者の知識、技術向上に関する教育を適宜行います。
③　認定特定行為業務従事者、特例実施者が安全・安心に医療的ケアができる環境を整えます。
④　第３号研修及び医療的ケア、緊急時対応の研修を実施していきます。
⑤　医療的ケアの啓蒙を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　毎月１回、委員会を開催し、適切に医療的ケアが実施できているか確認します。	毎月１回開催し、認定特定行為従事者、特例実施者の医療的ケアに関する現状確認、要医ケア者の現状確認、検討事項として、たんの吸引等の実施の為の研修内容の確認等々検討し、また、医療的ケアに関する研修に関しても情報を共有するようにしました。	実施できました。	
①－２　適宜、医療的ケアの内容の確認や変更事項やご利用者の体調の把握に努めます。	看護師や各フロアの主任に医ケアの内容や確認、変更事項、体調把握に関する報告をしてもらい、内容によっては検討し情報を共有し、安全に医療的ケアができるように努めました。	実施できました。	
②－１　医療的ケアに関する研修への参加の機会を認定特定行為業務従事者及び特例実施者に設けます。	正規職員、有期契約職員に対して認定特定行為業務従事者になるための研修を実施しました。また、吸引、注入のフォローアップ研修を行いました。	実施できました。	

②－２　医療的ケアを実施する場面で、手技や配慮する点などの看護師によるOJTや確認を実施します。	日常の支援の中で看護師と同じ空間でご利用者支援をしているので、随時看護師によるＯＪＴや確認を実施し、安全に医療的ケアができるようにしました。また、送迎時のみ吸引をする職員には別途看護師の元、手技の確認を行いました。	実施できました。	グループ異動に伴う職員の吸引注入について検討していきます。
③－１　職員にマニュアルの周知徹底を図ります。	４月１５日特定職員研修、てんかん発作時の座薬挿入研修の実施しました。 ６月９日に認定特定行為業務従事者研修を実施しました。	実施できました。	
③－２　情報提供を行うことによって指導医と主治医の連携の強化を図ります。	ご利用者の体調の変化や入院等があった場合は指導医に必ず報告し、また、主治医に意見や情報を確認したい場合は書面にて連絡を取り合い、ご利用者の状態をしっかり把握し、支援することができました。	実施できました。	
③-3　法人の医療的ケア指要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行います。	法人の医療的ケア指要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行い安全に花の郷での医療的ケアを実施することができました。	実施できました。	
④－１　計画的に研修を実施し、健全、確実な運用を行います。	年間計画に沿ってに実施しました。花の郷内部での認定特定行為業務従事者の育成を計画的に行うことができました。	実施できました。	
④－２　職員に認定特定行為業務従事者の認定を取得してもらい、ご利用者の生活の保障等を目指していきます。	計画的に研修会を実施し、有期契約職員にも認定特定行為業務従事者の認定取得を計画的に実施できています。そのことでご利用者の支援に反映することができました。	実施できました。	
⑤－１　施設見学の受け入れや医療的ケアに関する研修や連絡会に参加します。	新型コロナウイルス対応の為着手できませんでした。	着手できませんでした。	

４．送迎委員

（１）　目標
①　ご利用者が安心して花の郷へ通えるよう、安全な送迎業務に取り組みます。
②　「基本ルート表」に沿って毎月送迎車の運行を行います。
③　総括を行い、送迎業務の見直しをします。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　車検以外にもディーラーに依頼し定期点検を行い、また花の郷でも定期的な点検を実施することで、車輌の安全確保に努めます。	ディーラーに依頼し、６ヶ月点検、１２ヶ月点検、車検を行いました。金曜夕方の送迎後から日曜にかけて実施することで送迎に支障が出ないよう配慮しました。	実施できました。	継続して車両の安全確保に努めます。
①－２　車中ではシートベルトの他に、必要に応じて胸ベルトをすることで更なる安全対策に努めます。	ご利用者の特性や座る座席に合わせ、シートベルト以外に胸ベルトをするなど安全対策を施しました。また、個別支援計画にその旨を記載し、保護者にも確認をとりました。	実施できました。	継続してご利用者の安全確保に努めます。
①－３　運転手は急ブレーキや急発進などをしないよう心がけ、安全な走行に努めます。	運転手はご利用者が安心して乗車できるように安全な運転を心がけました。	概ね実施できました。	継続して運転手は安全な走行に努めます。ヒヤリハットや事故があった際は全員で共有して日々の業務改善に努めます。
①―４　車内では利用者の座席配置に気を配り、安全に過ごせるよう配慮します。	ご利用者の障害特性に合わせた座席配置を行い、安全に過ごせるように配慮しました。	実施できました。	継続して車内でのご利用者が安全に過ごせるよう配慮します。
①－５　緊急時におけるマニュアルを作成し、対応の統一を図ります。	緊急時の対応の統一化へ向け「送迎引継ぎ表」を作成しました。	実施できました。	来年度も継続して使用し緊急時における対応の統一化を行います。
①－６　「運転手マニュアル」を継続して活用し、断続的に見直しを行います。	昨年度作成した運転手のマニュアル・添乗員のマニュアルを使用し、送迎車の運行を行いました。	実施できました。	来年度も継続して使用し業務の統一化を行います。
②－１　送迎ルートは原則固定とし、年度途中での大幅な見直しは行いません。	新規ご利用者の追加やご利用者の引っ越し、座席から車椅子利用への変更などによる特別な事情を除き、大幅なルートの変更は行いませんでした。	実施できました。	来年度も原則、ルートを一年間固定します。必要がある場合は臨時の送迎会議を行います。
②－２　毎月１０日前後に送迎連絡表（キャンセル表）を利用者に配布し、翌月の送迎ルート表に反映させます。	毎月送迎連絡表を配布することで円滑に送迎業務を行うことができました。	実施できました。	来年度も送迎業務円滑化のため送迎連絡表を毎月配布します。

②－３　ルート表は「基本ルート表」を基礎として１ヶ月単位で利用者へ配布し、それに沿って運行を行います。	毎月２５日前後にご利用者へ翌月度の基本ルート表の配布を行い、それに沿った運行を行いました。	実施できました。	来年度もご利用者に配布した基本ルート表に沿った運行を行います。
③－１　前期と後期に総括を行い、送迎業務の見直しをし、次期に反映させます。	前期と後期に総括は行いませんでしたが、日常的に業務の確認や必要に応じ送迎員で話し合いました。	着手できませんでした。	定期的に業務の確認、見直しを行います。
③―２　家族会からの要望等があれば、必要に応じて家族会とも話し合いの場を持ち、送迎業務に反映させていきます。	今年度は家族会からの要望はありませんでした。	実施できました。	家族会から要望があった場合には、話し合いの場を持ち、送迎業務に反映させます。

５．防災委員会

（１）　目標
①　花の郷関係者の防災への意識を高めます。
②　災害時の食事を体験します。
③　応急救護訓練の実施をします。
④　災害備蓄品の見直しを行います。
⑤　災害時のマニュアル等の整備を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　年２回総合防災訓練を実施し実際に火災が起きた場合の自衛消防隊の動きの確認、消火器の使い方、通報の仕方、避難の仕方を確認し、防災への意識を高めます。	年に２回に総合防災訓練を実施。実際に避難訓練を行い、防火管理者による消火器使用の説明事務所内内線を使い通報訓練を実施しました。ご利用者、職員の防災への意識を高めることができました。またBCPの作成を行いました。	実施できました。	
②－１　年１回炊き出し訓練を行い、防災備蓄品の調理の仕方の確認、ご利用者への適切な食形態への対応の練習、かまどなどの設置の確認を行います。	新型コロナウイルス対応のため、炊き出し訓練は実施できませんでしたが自家発電機エネポの確認を定期的に実施することができました。また、栄養士に常食及び携帯食の３食３日分の献立を作成してもらい献立に合わせた備蓄食材の購入を３年計画で実施中です。	概ね実施できました。	
③－１　防災備蓄品に二時避難所として必要な物品を再確認します。	防災備蓄食材を中心に購入し備蓄することができました。（形態食含む）	概ね実施できました。	

④－２　用途別、期限の有無、追加備品などの整理を行います。また、内容について管理していきます。	備蓄食材の在庫管理を行いました	概ね実施できました。	
⑤－１　９，２月に防災委員会を開き、施設及び設備の点検、防災倉庫の整理、花の郷災害マニュアルの作成、花の郷二次避難所開設マニュアルの整備等を行います。	町田市の二次避難所に関する資料を提出する際、再確認しました。また、９月に防災設備等に関わる点検及び引継ぎを実施しました。	概ね実施できました。	

６．花の郷祭り

（１）　目標
①　年一回の施設の開放と大きな地域交流の場として花の郷関係者及び地域の方々にも楽しんでいただけるようにします。
②　集客の向上のためＰＲ活動を積極的に行います。
③　安全に楽しめるように企画します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ステージ企画や模擬店を通じて地域の方々との交流の機会を設けます。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。当日は、施設開所し、フロアごとにお企画し、祭りのイベントにしました。	着手できませんでした。	新型コロナウイルス感染状況により、実施を判断します。
①－２　他団体に声をかけ、イベントや外の販売ブースなど充実できるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	
②－１　ポスターやビラを作成し、近隣へ配ります。	配布期間、担当を決定し、職員に周知し、配布しました。	実施できました。	実績を基に枚数を適数準備します。ポスター内容に関しては祭り担当全員で見直しながら完成させます。
②－２　ご利用者の活動とも連携し、計画的にビラの配布を行います。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	
③－１　花の郷祭り実行委員会を開催し、企画の立案と安全かつ効率的に運営できるようにします。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	
③－２　ご利用者、職員全体が主体的に楽しく、達成感が持てる関わりができるよう企画します。	新型コロナウイルス感染予防のため、実施しませんでした。	着手できませんでした。	

７．拡大外出

（１）　目標
①　安全、安心で楽しい外出を企画し、笑顔になれる時間を提供します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　拡大外出PTで安全で安心して楽しい外出を実施する為の方向性を出します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
①－２　各グループでの拡大外出を企画するだけでなく、グループの枠にとらわれない拡大外出も企画し、よりご利用者のニーズや状態に合わせた拡大外出を実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－３　ご利用者の健康面、精神面を考慮した拡大外出を企画、実施します。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－４　緊急時を想定して、外出の企画を考えます。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－５　体調不良やご家庭の事情などで参加できない時には、別日に保障できるようにします。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	
①－６　拡大外出について課題が出た場合には、適宜会議を開催して解決に向けて話し合います。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	

８．宿泊体験

（１）　目標
①　安全、安心、快適に花の郷でわくわくどきどきしながら泊まることを楽しもう。
②　安全でおいしい食事をしよう。
③　いつもの花の郷とは違う雰囲気を大切にしよう。
④　ご家族のいない環境に慣れよう。
⑤　職員は全人的な視点で取り組もう。
⑥　地域を意識した取り組みにしよう。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　ご利用者へ泊まりの希望アンケートをとり人数の把握をします。	２０１８年度にアンケートを実施し希望者の把握をしました。３年に１回のスパンで実施していましたが、コロナ禍の状況で現在は中止しています。		新型コロナウイルス感染予防に向けて、安全に実施できるか検討していきます。

①－２　アセスメントシートを利用してニーズの把握をします。	コロナ禍の状況で実施出来ませんでした。		
①－３　１回の受け入れ人数、日にち、体制等々各泊まりの単位で計画を立てます。	実施出来ませんでした。		
①－４　全体では送迎の調整、布団の手配、職員勤務の整理について確認していきます。	実施出来ませんでした。		
①－５　医療的ケアの受け入れ、それに伴う設備の調整を行います。	実施しませんでした。		
②－１　ご利用者が安全においしく食事を食べられる支援を行います。	実施しませんでした。		
②－２　緊急時にも安全でおいしい食事が提供できるよう、職員全員形態食(再調理)ができるようにします。	デリバリーの日を利用したりして形態食（再調理）を実施しました。		
③－１　泊まりの実施に向けて計画的に行事計画を立て実施後の報告をします。	実施しませんでした。		
④－１　ご利用者の夜の過ごし方が分かるアセスメントシートを利用してご本人及びご家族に報告します。	実施しませんでした。		
⑤－１　入浴マニュアルの見直しを行い、安全に入浴できるようにします。	実施しませんでした。		
⑥－１　実施前に近隣へのご挨拶をします。	実施しませんでした。		
⑥－２　地域の医療機関と連携を図り安全に花の郷に泊まれるように救急体制の整備をします。	実施しませんでした。		人員の確保ができ次第、実施します。
⑥－３　ご利用者の主治医と連絡を取り合います。	実施しませんでした。		継続します。

９．日中一時支援

（１）　目標
①　今まで日中一時支援の仕組みを再考します。
②　日中一時支援中のご利用者の過ごし方及び送迎について検討します。。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１　今までの日中一時支援について改善点を検討します。	コロナ禍の状況で実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
①－２　日中一時支援の内容、業務について改善点を検討します。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。
②－１　日中一時支援検討委員会の中で送迎の実施について検討していきます。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	感染状況を見ながら検討していきます。

ボワ・アルモニー

１．支援部門

（１）目標
目標1：心も体も健康に働き続けられるよう支援します。
目標2：地域との関わりを持って生活できるよう支援します。
目標3：集団の中で個別支援をチームで実施します。
目標4：職員の専門性の習得、資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めます。
目標5．リスク管理を徹底し、ご利用者、関係者が安全安心で過ごせる環境を作ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①日々の健康状態の把握（健康観察票による出勤時の確認）、毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問聴診を実施します。	健康診断、歯科検診、 コロナ対策の12：30検温、適宜換気の実施。	実施できました。	高齢化に伴う、健康管理・身体機能低下の把握。診断結果を保護者と共有し、治療などに結びつけていく。
（1）－②生産活動において、ご利用者の体力、腰痛などの身体への負担に配慮して役割分担や作業を提供します。	腰痛防止のため、長い時間座位にならないよう、立位での作業時間を組みました。	実施できました。	継続して支援していきます。
（2）－①行事を通して地域の方々の交流の実施。みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行ないます。	コロナの影響により行事は実施できませんでした。 美化活動は、生活介護にて実施。地域の廃品回収に段ボールを毎週提供しました。	概ね実施できました	コロナの状況に合わせて計画の見直しと代替え案の検討を継続します。
（3）－①生産活動を通して、ご利用者の状態像や目標に合わせ作業内容や作業環境を職員で検討し、共有し、適宜、行ないます。	その日々のご利用者の状態に合わせ、適宜、作業環境を調整・設定しました。	実施できました。	次年度も継続。

（４）－①各職員の目標管理に基づいて、外部研修に参加・研修報告を会議などで実施し専門職として必要な知識や専門性を身に着け、適切な支援が出来るよう努めます。	目標管理に則った研修派遣はなかった。専門性についての地知識習得への取り組みは十分ではなかったです。	実施しましたが結果が不十分	再度次年度計画する。
（５）-①避難訓練,応急救護訓練,防災教育等の訓練を継続して実施します。	計画を立てましたが、コロナウィルスの関係で実施ができない訓練もありました。	実施しましたが、結果が不十分。	次年度も継続。
（５）－②　防火・防災訓練のバリエーションを増やし、状況に応じた避難行動が取れるように訓練していきます。（年２回）。	年間予定に合わせて計画を立てましたが、コロナウィルスの関係で実施ができない訓練もありました。	実施しましたが、結果が不十分。	次年度も継続。
（５）－③　新型コロナウィルス、インフルエンザ、ノロウイルス感染症等への感染予防策として、手指消毒、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を作ります。	手指消毒、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を作りました。	実施できました。	

２．生産活動部門

（１）目標
目標１．“働く”ことから「生きがい」「やりがい」が実感できるよう支援します。
目標２．授産収入を上げ、工賃アップします。

（２）計画	実施状況	評価結果	今後の課題
（１）－① 作業場に毎月の作業実績・売上をグラフで表し、仕事の達成感を共有します。	グラフ化し、食堂の掲示板に掲示し、みんなの会にて報告をしました。	実施出来ました	次年度も継続。
（１）-② ご本人のスキルや目標,作業の納期や作業量に合わせ,ご利用者の作業分担を検討し,個々に設定し実施していただきます。	ご本人の能力に合わせ、封入点数を調整し、質を高めペース良く行なえるようにしました。	実施出来ました。	次年度も継続。

（２）－① 作業状況を本体・分場の支援職員間で共有し、納期や作業量に応じて臨機応変に職員体制を調整して授産収入および工賃アップを実施します。	適格な共有ができず、納期の問題があり、本体の職員が作業応援に行くことがありました。	着手できなかった。	職員の入れ替えや意識の薄さがあり、受注先信頼維持の面から従事してもらわなかった。 スケジュール、作業工程（準備）、どこに人手が必要かという事の不理解・職員自身の作業品質の差が明白になった１年だった。
【就Ｂ】（１）－①ご利用者が毎日意欲を持って、個々の持つ力を大いに発揮していただけるよう、作業の組立・工程の工夫、作業ジグの開発、また個別スペースを活用し、作業を実施します。	的確に個人の能力に合わせた作業工程や環境を整備した結果、平均１４０万円をこえる売り上げが達成できるようになりました。	実施できました。	次年度も継続。
（２）－① 受注量150,000通/月 以上、収入月平均1,000,000円/月 以上を目標とします	コロナの影響により、閉所・受注減があったが、DMSの配慮により、すぐに昨年同等の受注が回復した。	実施できました。	次年度も継続。職員による事前準備、後処理で残業がある。売上、ＤＭＳとの関係性などから受注量を維持するのか残業削減の為受注を減らすのか課題。

生活介護支援

（１）目標
目標1．心も体も健康に働き続けられるよう支援します。
目標2．地域との関わりを持って生活できるよう支援します。
目標３．職員の資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めます。
目標4．余暇活動を設定し、充実した時間を過ごします。
目標5．リスク管理を徹底し、ご利用者、関係者が安全安心で過ごせる環境を作ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 毎朝バイタルチェックを行い健康状態の把握　毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問聴診を実施します。	看護師との連携の元、毎朝のバイタルチェック健康状態の把握のほか、毎日の口腔ケア、月例の体重測定、健康診断・歯科検診・問聴診を実施しました。結果については各ご利用者に個別にお伝えしています。コロナワクチンのＰ集団接種を行ないました。	実施できました。	次年度も継続。

（１）－② 生産活動において、ご利用者の状態像に合う作業を提供し、無理なく取り組めるような作業を提供します。	工程ごとに分けるなど、各ご利用者それぞれのペース・方法で作業に携われるよう作業提供をしました。	実施できました。	次年度も継続。
（２）－① 行事を通して地域の方々との交流を実施します。みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行います。	コロナの為、地域交流は出来ませんでしたが、社会貢献の一環として美化活動に取り組みました。	実施できました。	次年度も継続。
（３）－① 各職員の目標管理に基づいて、外部研修に参加・研修報告を会議などで実施し職員で共有します。	年度途中で職員の退職・異動・入職があり、適切な研修の計画ができませんでした。その都度外部研修の情報提供は行い、参加する機会を持っています。	実施できました。	次年度も継続。
（４）－① わかりやすい活動内容で、楽しく充実した活動の設定をします。	ご利用者の方の興味を引き出す、わかりやすい活動の内容を提供しました。	実施できました。	次年度も継続。
（４）－② 個々の興味を取り入れながら毎月2回以上余暇活動を設定します。	月2回のレクリエーションを計画、実施しました。実施内容をポスターなどで掲示して事前にお知らせする事や製作活動での作品を展示しました。	実施できました。	次年度も継続。
（５）-①避難訓練,応急救護訓練,防災教育等の訓練を継続して実施します。	計画を立てましたが、コロナウィルスの関係で実施ができない訓練もありました。	実施しましたが、結果が不十分。	次年度も継続。
（５）－②　防火・防災訓練のバリエーションを増やし、状況に応じた避難行動が取れるように訓練していきます。（年２回）。	年間予定に合わせて計画を立てましたが、コロナウィルスの関係で実施ができない訓練もありました。	実施しましたが、結果が不十分。	次年度も継続。
（５）－③　新型コロナウィルス、インフルエンザ、ノロウイルス感染症等への感染予防策として、手指消毒、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を作ります。	手指消毒、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を作りました。	実施できま	次年度も継続。

生産活動部門（生活介護）

（１）目標
目標1．”働く”ことを大切にします。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① ＤＭＳからの作業を中心として、平均工賃7,200円を目指します。	適宜個別スペースを活用し、集中して作業に取り組めるよう環境を設定しました。	概ね実施できました。	新型コロナウイルスの影響により、目標平均工賃を達成できない月もありましたが、年間平均では、達成しました。
（１）－② 個々のご利用者により合った方法で作業を提供し、生産性を高めていきます。	作業内容により、席の配置変更を行いながら、ご利用者が安全に動けるように作業の提供を行いました。	実施できました。	ご利用者の体調や情緒面に配慮しながら、作業を提供してまいります。
（１）－③ 働くことの大切さをご利用者と一緒に考えていきます。	個々の特性にあわせた仕事のしやすい環境を提供することで、働くことの意識が高まり、目標工賃を達成することが出来ました。	実施できました。	

栄養部門

(1)目標
目標１．日本人の食事摂取基準（2020年度版）を元にご利用者一人ひとりに適正な栄養のある食事、年間を通して飽きの来ない美味しいランチ提供を目指します。
目標２．衛生管理の徹底の再確認をします。
目標３.「世界の食と文化」についての食育を実施します。
目標４．災害時を想定した献立を作ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 一人ひとりに適正な栄養目標量を設定して献立作成を行います。	一人ひとりの栄養目標量を設定して必要な栄養が摂取できる献立作成を行いました。	実施できました。	次年度も継続。

（１）－② ご利用者の嗜好調査や健康診断の結果を栄養士が把握して、必要な栄養素を摂取出来る食事量、食事形態を考慮した給食を提供します。 また、ＢＭＩ25%以上の方には、カロリー33%減で食物繊維が豊富なマンナンヒカリ入りごはんを提供します。	アンケート調査の結果や個人の嗜好への配慮、健康診断や通院の結果を踏まえて個別の計画を立て食事提供を行いました。 肥満傾向のある方にはマンナンヒカリ入りご飯を提供しました。	実施できました。	次年度も継続。
（１）－③ 季節の行事食の提供、毎月誕生会を誕生者の希望をメニューに取り入れて実施します。 また、選択メニューやバイキング形式での給食提供を実施します。	旬の食材を使用した季節感のある、色彩豊かな食事の提供を行いました。 リクエストをご利用者全員にお聞きし、誕生会とリクエストが多い時には、その月中に実施して喜んでいただけました。 選択メニューは実施出来ましたが、バイキングはコロナ禍で中止になりました/	概ね実施できました。	コロナ禍でバイキングなどの実施は難しいので、形を変えて喜ばれる計画を立てていきます。
（２）－①コロナ禍に伴い密をさけ２交代制での給食提供や、消毒の回数等も増加したことを踏まえて、調理員全員で衛生管理マニュアル、ＨＡＣＣＰの取り組みの確認をする会議を設定します。	衛生管理マニュアル他、厨房用のマニュアルの改定と、ＨＡＣＣＰの取り組みに必要な書類を追加作成し実施できました。	実施できました。	次年度も継続。
（２）－②栄養管理講習会、食品衛生実務講習会、調理実習、スチコンセミナー等の外部研修に全調理員が参加出来るように計画します。	リモートで開催した、保健所主催の講習会には参加出来ましたが、調理実習等は開催がなく全調理員の参加にはいたりませんでしたが、食品衛生実務講習会などＱＲコードで見られるものは全調理員、確認いたしました。	概ね実施できました。	セミナーの内容は全調理員で共有出来るように、会議や打ち合わせで伝えていきます。
（３）－①世界の料理を通して、その国の文化を知り日本料理との違いを体感できる食育を食育月間の６月に実施します。	6月１４～１８日に「食のオリンピック」という食育週間を実施し、世界の興味のある国や料理を投票して決めて、食事提供をしながらご説明をさせていただきました。	実施出来ました。	次年度も継続。

（４）－①災害時を想定して、電気、ガス、水が使用出来なくても温かい食事が提供できるように１週間分の献立を作成します。	備蓄食材や炊き出しかまどを使用して、災害時想定の食事をつくる献立を立て、月１回食事提供を実施しました。	実施できました。	次年度も継続。

みんなの会

（１）目標
目標1．みんなの会でご利用者に関わる行事内容などを話し合う機会を設定し、ご利用者を中心に決定します。
目標2．ご利用者一人ひとりが自己表現・自己決定できる機会とします。
目標３．地域交流活動をします。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①ご利用者の意見を反映させ、良い行事となるようみんなの会で話し合う時間を作ります。	外注食などご利用者の希望を確認し、決めることができました。	実施できました。	継続します
（2）－①行事の内容や参加をご利用者自らの意思で、選択する、設定するなどの自己決定ができるようにします。	みんなで意見を出し合い、選択し自己決定することが出来ました。	実施できました。	ご利用者が自己決定できる機会を増やします。
（2）－②年度末にみんなの会役員選挙を通じて、立候補することや他のご利用者を推薦する・されるなど、自身の自己表現・自己決定ができるようにします。	立候補者を募り数多くの立候補者の中から、選挙によりみんなで役員を決めることができました。	実施できました。	継続します
（3）－①地域の中で共に生活する一員として、地域貢献として美化活動を実施します。	作業の合間を見て、美化活動を実施しました。引き続き来年度も実施していきます。	実施できました。	実施できる機会があまりありませんでした。

保健衛生

（１）目標
目標１　ご利用者の安心・安全を目指した健康支援を行います。
目標２　歯科衛生に努めます。
目標３　家庭支援としてご家族からの健康相談に応じます。
目標４　感染症の予防に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 希望されるご利用者のみ健康診断を施設にて実施します。	産業健診センターに依頼し、検診車来訪の元希望者に対して健康診断を実施しました。 今年度は、成人病予防の観点からHBA１ｃの測定も追加しました。	実施できました。	来期についても産業健診センターに実施依頼していく予定。
（１）－② 毎月体重測定を行ないます。	基本的に月末に本体、分場と分けて測定しました。	実施できました。	次年度も継続。
（１）－③年に１度体脂肪率測定を行ないます。	健康診断受診時に体脂肪測定を行いました。	実施できました。	次年度も継続。
（１）－④殺菌効果のある酸性水を使用し、うがいを行なうよう支援します。	毎日の休憩時に行なっています。	実施できました。	次年度も継続。
（１）－⑤服薬管理を適切に行ないます。 ・常備薬の内容の把握 ・災害時用の３日分の服薬管理（４月・10月に差し替えを行ないます）	日々の服薬管理については、誤薬なく実施しています。常用薬の管理についても、ご家庭と連携を取り、把握した分については効能書の控えを管理しています。災害時の預かり分については、定期的な入れ替えを含めて実施できています。	実施できました。	次年度も継続。
（２）－①昼食後の歯みがき支援は、コロナウィルス感染予防を徹底しながら必要な方には仕上げ磨きを行なう。	毎食後の歯磨きを徹底しており、必要な方には感染予防対策をとり磨き直しを行ないました。	実施できました。	コロナウイルス感染予防の観点より仕上げ磨きの人数を制限して行うようにしました。継続していきます。
（２）－②歯科衛生士によるブラッシング指導を実施します。（６月予定）	６月、全員を対象に障がい者歯科の歯科衛生士によるブラッシング指導を４回に分け個別に行いました。結果を受けて食後の歯磨きを徹底し、必要な方には磨き直しを行いました。	実施できました。	次年度も継続

（２）－③希望されるご利用者に成人歯科健診を実施します。	今年度はコロナウィルス感染拡大の影響を受け、３月1日に延期となりましたが実施しました。その結果必要な方には医師受診を進めました。	実施できました。	次年度も継続
（３）－①嘱託医による問聴診を実施します。	西島医院と調整し3/9に実施しました。	実施できました。	次年度も継続
（４）－①施設内のインフルエンザ流行を防ぐため、ご利用者・職員の呼びかけ、希望者に予防接種を実施します。	今年度は、コロナウィルスワクチン接種の影響で例年より遅くなりましたが、嘱託医の西島医院と調整し11/29日実施しました。	実施できました。	次年度も継続
（４）－②コロナウイルス感染予防のため非接触のアルコール消毒と常時マスクの着用を徹底します。（必要時以外）	毎日手指消毒器の清掃点検を行い、アルコール液の残量も確認した。	実施出来ました。コロナワクチン接種も３回実施できました。	次年度も継続。
（４）－③消毒液を設置し手洗い後の手指消毒、咳がでるときや感染症流行時にマスクの着用を呼びかけ感染予防に努めます。	前年度購入した手指消毒器がコロナウィルス感染予防に大きな役割を果たし、手指消毒器が入手困難な時も無事に乗り越えられました。。トイレ使用後や施設に入室する際は必ず手指消毒をするよう指導し衛生の向上に努めました。 また、マスク着用においては今後もしばらくは常時必要な状況が続くと思われます。	実施できました。	コロナ感染予防のため常時マスク着用を徹底的に指導し、出勤時や入室時の手指の消毒に勤めます。
（４）－④手洗いチェッカーを施設に設置し、７月、１１月、３月に手洗い確認を実施します。ご利用者の皆様に正しい手洗い方法を習得していただきます	３回／年の手洗いチエック実施できました。手洗いが不十分な方に対してはネットやブラシを利用して洗っていただくように蛇口横に準備しました。使用後は酸性水で洗浄後乾燥させるようにしました。	実施できました。	次年度も継続

内部研修

（１）目標			
目標１．虐待防止研修を実施しサービスの質の向上をします。			
（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－①内部研修として虐待防止についての研修を10月に実施し、職員の質の向上・人材育成を行ないます。	令和3年度は、全職員に虐待自己点検シートをアプリケーション通じて出た回答を基に、分析に役立てました。	実施できました。	今後も虐待防止委員会を中心に、虐待自己点検シートをアプリケーションを通じて出た回答データを基にして注意すべき点を分析し、虐待防止に努めます。

実習・ボランティア

（１）目標
目標1．職場体験・実習生の受け入れをします。
目標2．ボランティアの方が楽しく作業や行事補助ができるよう配慮します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 特別支援学校、福祉、一般学生からの実習受け入れを年間スケジュール、現場の状況から勘案し、計画的に受け入れます。	コロナウイルスの関係で要望通りには、応えることができませんでしたが、日数、時間短縮等で協力頂き、特別支援学校、一般学生の依頼に沿って実習の受け入れをしました。	実施できました。	新型コロナウイルス対策を徹底し、介護等体験実習について、要請に基づいて受け入れます。
（２）－① ボランティアセンターと連携を取り、積極的に受け入れを行います。また、ボランティアの方との意見交換を実施して、受け入れについての改善点などを見つけ定着を図っていきます。	ボランティアセンターとは連絡は十分ではなかったが、現在受け入れているボランティアの方とは、意見を交換しながら活動協力をいただくことが出来ています。	着手できなかった。	ボランティアセンターとの連携を積極的に相談します。
－② ボランティアの方が楽しく作業補助や行事補助が出来ように環境作りします。	作業補助のボランティアについては、作業が途切れることが無いよう努力しましたが作業量が少ない場合もあり、ご相談の上、休んで頂くこともありました。	概ね実施できました。	新型コロナウイルスの影響で作業量の低下があった際は、ご相談の上、お休み頂くこともありましたが、新しい生活スタイルでの取り組みに努めます。

送迎管理

（１）目標
目標１　ご利用者の安心安全を第一に考えた送迎業務を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）－① 無事故で送迎できるように安全運転を徹底します。	ドライブレコーダーを取り付け、また運転手の協力を頂きながら、安全に送迎業務を行いました。	実施できました。	
（１）－②日常点検、整備、洗車、給油等を随時実施し、送迎業務に支障がないよう管理します。	運転手の協力の元、日々の走行前後に車内外の清掃を行なっています。	実施できました。	
（１）－③送迎車内でのトラブル防止に配慮します。	送迎運行の際、停車時・ご利用者の乗り降り時にトラブルはありませんでした。	実施できました。	
（１）－④運行予定表を作成しご利用者の休み等を事前に把握し、スムーズな送迎業務を実施します。	送迎キャンセルの把握を行ない、運転手への連絡を確実に行なうことで、日々確実な運行を行なうことが出来ました。	実施できました。	年度中に運行予定表をスマートフォンのアプリケーションに変更し、新しい情報が、いつでも確認できるように、改善し、スムーズな送迎業務に結びつけることができました。
（１）－⑤コロナ感染対策の為、乗車時には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開ける対応を取りました。乗車前に車内の除菌消毒を行ないました。	実施できました。	
（１）－⑥緊急時に備えたマニュアルを作成し車内に常設できるようにします。	災害時用の水・非常食・災害避難マップを車内に常備し、運転手と確認を行ないました。	実施できました。	

車両管理

（１）目標
目標１　車両の安全走行の為の点検・整備。
目標２　車両の清掃・車検

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）ー①安全走行を第一に心掛け、週に一度、点検項目確認（エンジンオイルの量や色、ラジェーター液の点検、ヘッドライト・テールライトの点検、ファンベルの緩みの確認、タイヤの溝の確認や空気圧の点検、室内空間/ヒーター・クーラーの確認）を行ないます。	運転手の協力の元、運行前に点検を行ないました。	実施できました。	
ー ②冬用のタイヤへの交換は１２月・３月に実施します。	業者と調整のうえ、交換を実施しました。	実施できました。	
（２）ー①車両の外・内部を清掃に保つよう清掃点検を実施します。	運転手の協力の元、運行前後の清掃を行ないました。	実施できました。	
ー②減免申請や車検の手続きは滞らないよう、計画的に行います。	全車両の車検日の一覧表を作成し、計画的に行いました。	実施できました。	
ー③コロナ感染予防の為、夏場は酸性水、冬場はアルコール消毒を車内に用意し、乗車の際には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開け換気対応を取りました。	実施できました。	

日帰りレクリエーション

（１）目標
目標１.日頃の作業を離れ、余暇活動を提供します。 目標２.コロナ禍に於ける新しい形の余暇活動を提供します

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）―①　楽しい余暇活動出来るよう、みんなの会と連携し、何処で何をしたいか話し合い、出来るだけご希望に沿った余暇を実施します。	みんなの会と連携して、お楽しみ会で何をしたいか話し合いました。新型コロナの影響で実施には至りませんでした。	着手できなかった。	コロナウィルス感染症等に配慮し、新しいスタイルのレクリエーションを提案してまいります。

（1）―②　心身のリフレッシュを図れる企画を立て、実施します。	毎月2回ご利用者に楽しんで頂ける様な企画を計画致しました。	実施できました。	
（2）―①　コロナ禍に於ける生活様式を意識し、ご利用者と共に考え、外出に拘らないレクレーションを提供します。	創作や調理レクリエーションなどを企画致しました。	実施できました。	

法人広報誌

（1）目標
目標1．より多くの方々にボワ・アルモニーの行事やお知らせに興味を持っていただけるよう編集します

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①年４回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新されるホームページを利用して、ボワ・アルモニーで取り組んでいる活動等について、広く地域に向けて発信します。	ボワ・アルモニーで行った行事や日々の活動の様子、取り組みを広報誌やホームページに掲載し、お知らせすることが出来ました。特にホームページ掲載は定期的に更新し、最新の活動風景をお示しすることが出来ました。	実施できました。	今後も、ご利用者の日常や活動、作業の様子が常にわかる様、ホームページの掲載数を増やしてまいります。
（1）－②ご利用者の個人情報に配慮し、行事を通してボワ・アルモニーのご利用者の様子を広くお知らせします。	個人情報等に配慮し、ホームページ、広報誌を媒体として、日々の活動等を広く、お知らせすることができました。	実施できました。	個人情報に配慮し、日常のご利用者の活動や、特別な行事等も含め、幅広くお知らせしてまいります。

防災

（1）目標
目標1．災害時に備え、防災意識を高めていけるよう、避難訓練、点検を実施します。
BCP計画を基本に災害時の対応を進めて参ります。 （BCPとは災害などが発生して事業継続が危機的状況に陥った際に、より重要な業務への影響を最小限に抑え、できる限り迅速に業務を再開できるように、そのための復旧対策の手立てを事前に策定しておく計画）

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①　避難訓練（火災想定、地震想定）を実施します	火災、地震を想定し実施しました。また滑り台を使用した避難についても実施しました。	概ね実施できました。	災害のバリエーションを変え、有事に則した訓練にします。
（1）－②　起震車体験を実施します	計画を立てましたが、コロナウィルスの影響により実施できませんでした。	着手できなかった。	新型コロナウィルスの状況を鑑み、消防署と相談しながら行います。

（１）－③　防災備蓄品の確認を年に１回行ないます	賞味期限管理を含めて実施し、新たに購入も行いました。	実施できました。	
（１）－④　引き渡しカードを作成し、引き渡し訓練時に使用します。	コロナウィルスの影響により実施できませんでした。	着手できなかった。	新型コロナウィルスの状況を鑑みながら計画に沿って行ないます。
（１）－⑤　年２回、専門業者に委託し、消防設備等の点検を行ないます。	予定通り2回実施しました。	実施できました。	
（１）－⑥　防火管理責任者が、施設・設備の総点検を行ないます。	施設内の設備点検とともに防災設備および防災の視点での点検を毎月１回実施しました。	実施できました。	
（１）－⑦　自主検査チェック票（日常）「閉鎖障害等」を毎日確認、記入します。	本体・分場職員により自主点検を毎日実施しました。	実施できました。	
（２）－①　BCP計画に基づいたマニュアルを作成します。 初動対応・業務再開・業務回復・全面復旧までの終結を念頭に、時系列で具 体的な動きをマニュアルにします。	ＢＣＰ計画書を作成いたしました。今後は職員、ご利用者と計画に基づく訓練に結び付けて参りたいと思います。	概ね実施できました。	マニュアルの見直しを行ない、有事を想定した訓練を行って参ります。

2021年度 ボワ・ミニヨン　年間総括

1．支援部門

【ボワ・ミニヨン】

（1）　目標
①ご利用者個々のニーズをくみ取り、ご本人が思い描く生活を支援します。
②外部研修への参加、内部研修において、支援の専門性を向上します。
③防災・防犯対策に取り組みます。
④支援及び体制の効率化を図り、365日開所を目指します。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①　ご利用者が自分らしい生活をかなえられるよう、日々の中で思いをくみ取り、自己選択・自己決定を支援します。	日々の生活の中で、ご利用者の思いを大切にしました。コロナ禍でのご利用者個々の外出や、土日をホームで過ごされる方の時間の使い方についてなど、時には一緒に考え、双方が納得できる結論を導きました。また誕生日の食事メニューなど選択が必要な時はご利用者ご自身に選んでいただくなど自己決定を大切にしました。	実施できました。	新規採用の職員に対する引継ぎや研修を実施していきます。
1-②　日帰り旅行等の余暇活動を行い、楽しい時間が過ごせるようにします。	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として、外出や外食など、外へ出るイベントは中止しました。 代替活動としてピザの出前を頼むなど、ホーム内でレク活動を実施しました。普段とは異なる活動に、ご利用者みなさま、楽しまれている様子でした。	一部実施できました。	日帰り旅行などの余暇活動は今後も計画していきます。コロナウイルスやインフルエンザなどの流行などにも注意を払い、安全に実施できるよう努めます。
1-③　日々健康観察を行い必要に応じて関係機関と連携し、健康に過ごせるよう支援します。	表情や顔色などの他、朝夕の検温は全ご利用者を対象に実施しました。また各ご利用者の健康状態に合わせ、血圧測定や排便の有無の記録などをしました。普段と違った様子や数値が見られた時は、保護者や通所施設等とも連携をし、必要に応じて通院支援をするなどの対応を行いました。	実施できました。	

1-④　個々の希望に基づき、個別面談を行います。高齢化や家庭環境等の変化を見据えながら、ご本人に適した生活環境を整えます。	希望されるご家庭を対象に個別面談を実施しました。日々の様子や支援の他、将来的なことについても話をし、必要に応じて後見人についての説明などもしました。	実施できました。	
2-①　東京都社会福祉協議会階層別研修、グループホーム世話人研修等に参加します。	シフトとの調整を図りながら、新入職員を対象としたスタートアップ研修などに参加しました。また、サービス管理責任者更新研修や強度行動障害支援者研修といった職位に応じた研修にも参加し、各職員は必要なスキルを身に付けました。	実施できました。	
2-②　毎月の職員会議において虐待防止や支援の向上につながる研修を実施します。	職員会議の中で、事例を挙げながら、虐待防止の取り組みについて話し合いました。また、研修のフィードバックを行い、職員全体の支援の向上に努めました。	実施できました。	
2-③　職員の支援力に合わせたeラーニング研修を計画し、現場へのフィードバックまでを評価します。	各職員の支援力や職務に合わせて、eラーニングを使用した研修を計画し、実行しました。研修では介助技術や感染症、虐待についてなど、多岐にわたって学び、各々の研修後は報告の回覧や職員会議を通じたフィードバックを行い、内容の周知を図りました。	実施できました。	
2-④　目標管理面接を実施し、意欲的な研修参加や知識・技術の獲得を目指します。	定期的に目標管理面接を行いました。年度初めに立てた目標について確認するとともに、研修への参加などについても話し合いました。	実施できました。	

3-①　施設の見回りや施錠など、日常的な防犯・防災の備えを徹底します。	防犯に備えた見回りや施錠の他、台風の接近時などには飛ばされそうなものを室内に入れるなど、防災対策を徹底しました。また、夜間に地震が発生した際は、その規模により現場と管理者が連絡を取り合うなど、状況の共有を図りました。	実施できました。	
3-②　初期消火訓練、地震・火災避難訓練、救急救護訓練(AED訓練)、無線電話訓練を行います。	年間計画にて各種訓練を計画、実施しました。AED訓練については消防署員指導の元、訓練を行いました。	実施できました。	
3-③　災害用備蓄品の更新・補充を行います。	保存期限に応じた備蓄として、食料・水の更新を行った他、暖房器具といった備蓄品の増加を図りました。	実施できました。	
3-④　防災・防犯マニュアル及び緊急連絡体制の整備・見直しを行います。	マニュアルについては見直しをし、必要に応じて加筆等を行いました。また緊急連絡体制については連絡先をひとつのファイルにまとめるなど、緊急時にはスムーズに対応ができるよう整備しました。	実施できました。	
4-①　浴室にリフトの導入を検討し、ノーリフティングケアを構築します。	会議にてリフト導入の再確認をしましたが、導入には至りませんでした。	実施には至りませんでした。	今後もリフトの導入について検討し、必要に応じ、他法人施設の見学を行うなど、具現化を目指します。
4-②　365日開所に向けた体制強化のため、法人本部と連携し居住支援部としての雇用をすすめます。	年度初めから365日開所に向けて雇用を進めてきましたが、充分な職員数の雇用には至りませんでした。後期には、来年度へ向け、シフトにおける労働時間の見直しなども行いました。	実施には至りませんでした。	職員の雇用の促進やシフトの見直しなどを図り、365日開所に向けた取り組みを続けていきます。

2021年度 短期入所であい　年間総括

1．支援部門

【であい】

（1）　目標
①ご利用者個々にあった支援を充実させます。
②365日の受入を検討します。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①　ご家庭との情報共有ツールを充実させ、慣れない環境でも安心・安全に過ごせるようにします。	必要に応じ、ご家庭と連絡を取り合うことで、安全に過ごすことができました。またご利用者の表情も良く、安心して過ごされている様子でした。	実施できました。	
1-②　通所先(日中活動先)と連携し、健康に安定して過ごせるようにします。	健康など、必要な情報は連絡帳や電話などを通じて通所先と共有を図りました。利用されたご利用者はみな安定して過ごされている様子でした。	実施できました。	
1-③　施設の見回りや施錠など、日常的な防犯の備えを徹底します。	見回りや施錠、雨戸を閉めるなど、防犯に努めました。	実施できました。	防犯とともに防災という視点も大切にし、ご利用者がより安全で安心して過ごせる環境を整備していきます。
1-④　災害発生時の備えとして、あかねと合同で定期の訓練を実施をするほか、備蓄品の更新・マニュアル及び緊急連絡体制の整備・見直しを行います。	年間計画に則り、定期的に避難訓練を実施しました。備蓄品については消費期限が迫った非常食の更新を行いました。マニュアルなどについては見直しを行い、必要に応じて加筆などを行いました。	実施できました。	
2-①　休日の過ごし方や送迎の行い方を検討します。	金曜開所時の受け入れを開始しましたが、休日受け入れには至りませんでした。また送迎については、職員の体制の関係などから、保護者や通所施設に依頼をしました。	実施には至りませんでした。	ご本人やご家族、グループホームに対する社会的なニーズや役割といったことも念頭に入れながら今後も検討していきます。
2-②　職員体制が整い次第、受け入れ日を拡大します。	7月から金曜日の受け入れを開始しました。	実施できました。	受け入れ日のさらなる拡大について、今後も検討していきます。

2021年度　　児童支援部　年間総括

部門別年間総括

1．支援部門

【全体】

（1）取り組み
①発達年齢を考慮した、継続的な支援を提供します。
②生活年齢を意識した関わりや活動を提供します。
③事業所全体のマニュアルの見直しを計画的に行います。
④児童の職場体験を実施します。
⑤保護者向け法人事業所見学会を実施します。
⑥保護者間の交流を目的に保護者懇親会を開催します。
⑦放課後等デイサービスガイドラインの遵守及び自己評価の結果を公表します。
⑧支援の根拠を明確にし、専門的な視点を持ち適切な支援をします。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①発達年齢を考慮した、継続的な支援を提供します。	それぞれの事業所で、児童の興味ややりたいことに合わせた活動を設定しました。手順書や予定表を用意するなど、分かりやすさへの工夫をしました。活動や遊びを通して「楽しい」「できた」と思えることや、満たされることを大切にしました。	実施できました。	発達や障害特性への理解を深め、専門的な視点で支援や活動を検討できるようにします。
②生活年齢を意識した関わりや活動を提供します。	日常生活動作や身の回りのことに対しては、一人ひとりに合わせた適切な支援を行い「自分でやってみること」「自分でできること」を大切にしました。学齢期、思春期、青年期などその時期での育ちを意識しながら、気持ちの伝え方や人との関わりを支援しました。社会へのつながりを意識しながら呼称についても検討し取り組みました。	実施できました。	支援のあり方や考え方について丁寧に検討し、周知することで一定の方向性をもって支援できるようにします。
③事業所全体のマニュアルの見直しを計画的に行います。	年間予定に合わせてマニュアルの見直しを行いました。一人ひとりがマニュアルを確認、変更点や修正点について抽出し、必要に応じて改定作業を行いました。	概ね実施できました。	引き続き、マニュアルの整備を定期的に行い、安定した支援を提供します。
④児童の職場体験を実施します。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業所間の行き来や人との接触を最小限にとどめる対応を行いました。生活介護事業所、就労継続B型事業所のご利用者・職員との接触を避けるため、今年度の職場体験は中止の判断をしました。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら実施を検討します。
⑤保護者向け法人事業所見学会を実施します。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事業所間の行き来や人との接触を最小限にとどめる対応を行いました。生活介護事業所、就労継続B型事業所のご利用者・職員との接触を避けるため、今年度の保護者向け事業所見学会は中止の判断をしました。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら実施を検討します。
⑥保護者懇親会を開催します。	新型コロナウイルス感染予防のため、今年度の保護者懇親会は中止の判断をしました。	着手できませんでした。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら実施を検討します。

⑦放課後等デイサービスガイドラインの遵守及び自己評価結果の公表をします。	10月のお便り発送にて、自己評価について協力の依頼と評価表を配布しました。集計結果と結果から見える『認識のずれ』について各事業所で課題の抽出と改善策を検討しました。1月ホームページにて公表し、改善策については次年度の事業計画に活かせるようにしました。	実施できました。	
⑧支援の根拠を明確にし、専門的な視点を持ち適切な支援をします。	日常の支援の中では、障がい特性の理解や個人への理解を深めながら、原因やきっかけの分析、対応について考えました。しかし、年度当初に立てた『応用分析学など理論的な支援を学びながら日々の支援の振り返る』という学習計画については実行できませんでした。	着手しましたが、達成できませんでした。	学習のあり方を検討し、実行性のある計画を作成します。

委員会年間総括

1．虐待防止委員会

（1）目標
①虐待防止や児童の安全と権利擁護に向けて取り組みます。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組みます。	責任者が中心となり、月1回虐待防止委員会を設定し取り組みの検討、情報共有を行いました。	実施できました	次年度も継続します
②運営会議と合わせて虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います。	毎月運営会議の際、虐待防止委員会を開催しました。事業所ごとの状況の確認、検討事項の検討を行いました。3か月ごとの身体拘束適正化委員会も実施し、事業所ごとの状況を確認し情報共有しました。 虐待防止研修の内容を検討しました。	実施できました	次年度も継続します。三事業所の状況を共有し、児童支援部としての方針を検討したうえで、事業所ごとに議論ができるようにします。
③10月、全職員を対象とした虐待防止研修を行います。	職員会議内で全職員対象で研修を行いました。事前に虐待防止チェックリストの配布と回収を行い、集計結果の周知も行いました。 虐待防止の手引きの確認と、eラーニングにて研修を行いました。欠席者にも個別で説明を行いました。	実施できました	次年度も継続します
④虐待防止の取り組みとして、全職員を対象に虐待防止チェックを実施します。	虐待防止研修前にチェックリストを実施。集計結果を含め全職員に周知しました。回答が分かれる項目に関しては、虐待防止委員会内で検討し事業所としての対応について方針を周知しました。	実施できました	次年度も継続します
⑤気づきを共有できる、風通しの良い職場環境を整えます。	事業所ごとに、支援前の引継ぎや打ち合わせを実施しました。支援の対応に関することなど意見を出し合ったり、職員から上がった意見に関しては委員会内で議題として提案し、検討し結果の報告を全体に行いました。	実施できました	次年度も継続します

２．安全衛生委員会

（１）目標
①児童・職員の安全及び衛生のための取り組みを実施します。
②事業所内の重大事故を未然に防ぐ事故予防に努めます。
③児童・職員が健康で快適に過ごせる施設環境を整えます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①運営会議と合わせて安全衛生委員会を開催し、児童・職員の安全衛生及び労務環境についての検討、整備を行います。	月に一度、安全衛生委員会を実施し児童の健康状態や職員の健康、労務環境について検討、情報共有しました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②11月、全職員を対象とした感染症研修を実施し、感染症予防、衛生環境についての理解を深めます。	11月と12月に、全職員を対象とした感染予防研修を実施しました。11月はe－ラーニングを活用し、感染予防についての基礎を学び、12月には花の家看護師、協力のもと実際の吐物処理の方法や手順について実践的な研修を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①事業所内でのひやりはっとについて検証、必要な対策を講じることで重大事故を予防します。	それぞれの事業所で気づいたひやりはっとや安全衛生に関わることについて、安全衛生委員会の中でも検討し、必要な対応について、職員会議で周知できるようにしました。	概ね実施できました。	ひやりはっとの抽出方法を工夫し、より安全な支援ができるよう検討します。
2-②事故検証では、直接的な要因だけでなく背景となる要因にも目を向け、環境改善を含めた再発防止に努めます。	事故発生の際は、各事業所で原因、対策について検討しました。繰り返される事故については、本人の行動特性や得たい刺激、支援のあり方、空間環境などさまざまな視点から検証し、解決策を模索しました。安全衛生委員会の中でもさらに深め、再発防止に努めました。	概ね実施できました。	次年度も継続します。
3-①定期的に設備や備品、玩具等の安全を確認します。	備品や玩具の点検を定期的に実施し、破損や不具合がみられるものについては適切に修理、破棄しました。備品や玩具の破損による事故は発生しませんでした。	実施できました。	次年度も継続します。
3-②定期的な換気や季節に合わせた温度湿度に配慮し、健康に快適に過ごせる環境を整えます。	感染症に気を付け、定期的な室内の換気や温度調節を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。

３．防災委員会

（１）目標
①災害に備え、避難訓練を実施し、職員・児童の防災意識を高めます。
②消火訓練、応急救護訓練、AED研修を実施します。
③災害備蓄品の適正な管理や補充を行います。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①火災想定の避難訓練、地震想定の避難訓練を1回ずつ、1週間を通して実施します。	火災（５月）、地震（１月）を想定した避難訓練を実施しました。一週間を通して設定することで多くの児童、職員が避難訓練に参加し安全意識の向上に努めました。	実施できました。	年間予定、連絡帳、広報、HPなどで保護者へお知らせをしていますが周知しきれていない様子が伺えているので周知のあり方について検討します。
1-②避難訓練の振り返りを行い、必要な備品や人の動きを確認し、適切な防災環境を整えます。	訓練実施後に各事業所ごとで振り返りを実施しました。備品や避難のあり方を再検討し、実際に避難が必要な場面でスムーズな避難ができるよう環境を整えました。実施内容については報告書を作成し次年度に活かせるようにしました。	実施できました。	次年度も継続します。
２-①年間計画で日程を整え、計画的に実施します。	年間計画（児童支援部共通）で決めた日程で計画的に実施しました。年間計画、連絡帳、HPなどを通して実施状況を保護者にも周知しています。居住支援部、児童支援部合同での初期消化訓練（発電機の始動含む）やAEDの取り扱いについて研修形式で訓練を実施し防災、応急救護への意識を高めました。	実施できました。	次年度も継続します。
３-①各事業所で必要な防災備蓄の確認をします。	各事業所ごと必要な防災備蓄品の確認を進めました。	実施できました。	次年度も継続します。
３-②賞味期限を確認し、無駄なく消費、追加をします。また、備蓄内容についてリスト化し、分かりやすく管理します。	賞味期限を確認しながら、活動の中で（おやつ、昼食など）無理なく美味しく消費してからの購入を進めています。備蓄内容、消費期限リスト化し見やすいところに掲示するなどして管理しました。	実施できました。	次年度も継続します。

４．送迎委員会

（１）目標
①安全な送迎を実施します。
②害や事故に備え、マニュアルの作成や災害対応訓練を実施します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①半年に一度の定期点検を行います。また各事業所での走行前点検を行い、安全に走行できるよう車両を整備します。	各事業所で半年点検、車検を実施しました。また送迎実施前には全車両点検を行い、安全に走行が行えるように車両の整備を行いました。	実施できました。	次年度も継続。

1-②運転者チェックリストや健康確認等、運転者の適正を確認し、安全に送迎業務を行います。	運転者チェックリストは整備がされておらず未実施でした。運転手の健康確認や適正については運転手に直接確認を行いまいした。運転手からの申し出により勤務日の変更や運転車両を限定するなど、安全な送迎が行えるように努めました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	次年度も継続。 運転者チェックリストの整備を行う。運転前の健康確認を行えるツールを整備する。
1-③運転者は、交通ルールを遵守し安全な走行に努めます。	送迎実施中の人身事故・違反はなく、交通ルールを遵守した安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続。
1-④車内では児童の座席配置に配慮し、安全に乗車できるようにします。	乗降順や児童同士の相性や特性を考慮して座席を配置しました。車内での大きなトラブル・事故はなく、安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続。
2-①事故時におけるマニュアルを整備し、迅速な対応ができるようにします。	事故対応マニュアルを各事務所に設置し、いつでも閲覧できる環境を整えました。年に1度、災害対応訓練の際に確認をし、事故が起きた際に迅速な対応ができるように努めました。	実施できました。	次年度も継続。
2-②災害時に備え、実際に車両を運行させた災害対応訓練を実施し、適切な判断ができるようにします。	年に1回、送迎に関わる職員（運転手、添乗員）を対象にして、災害対応訓練を実施しました。実際に車両を走行させ、安全確保と連絡の訓練を行いました。	実施できました。	次年度も継続。

5．広報委員会

（1）目標
①広報誌にて、児童支援部の取り組みや活動の様子を広く伝えます。
②ホームページを活用し、活動の様子や必要な情報を発信します。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①広報発行に合わせて、原稿を構成し地域や保護者に向けて活動の様子や取り組みを紹介します。	今年度の広報発行（4月、7月、10月、1月）に合わせ、原稿のテーマを受けて記事を作成しました。事業所ごとの活動の様子や取り組みを写真を使用して紹介することができました。 児童支援部として継続的に取り組んでいる心理研修についても掲載し紹介しました。	実施できました。	次年度も継続します。
1-②写真使用について、毎年、個人情報同意書にて同意の有無について確認をします。個人情報の取扱いに厳重に注意します。	写真使用についての同意書を集約し、一覧表を作成しました。同意があるご利用者のみ掲載するように広報誌やホームページを作成しました。 広報発行前、HP掲載前には稟議書にて内容や写真の使用可否の確認を丁寧に行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
2-①保護者会資料や年間予定など、必要な情報をホームページ上で確認できるようにします。	ホームページの児童支援部専用ページにおいて、保護者会資料や年間予定などの情報提供を行いました。また、法人ホームページにて２０２１年度児童支援部事業所自己評価集計及び検討結果を掲載しました。 今年度はコロナにより保護者会は中止となり、ホームページ上で書面での情報提供を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。

2-②事業所での活動について、定期的に記事を投稿しお知らせします。	各事業所ごとに定期的にホームページの記事を作成し、更新をしました。活動の様子を写真を交えて紹介することができました。	実施できました。	次年度も継続します。

6．苦情解決委員会

（1）目標
①利用児童、保護者、地域からの苦情や要望に対して、適切な対応を検討します。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
1-①苦情や要望の内容を正確に把握できるよう丁寧な聞き取りを行い、適切な対応を検討します。	苦情については傾聴姿勢を意識し、丁寧に話を聞くと同時に、話の主訴が明確になるよう対応しました。具体的な要望を確認し、事業所としてできることとできないことを明確にお伝えしました。要望については、会議にて対応を検討しました。	実施できました。	次年度も継続します
1-②苦情、要望、相談については、迅速に対応します。	寄せられた苦情、要望、相談については、職員、主任、園長など対応職員について判断し、時間をあけずに対応しました。	実施できました。	次年度も継続します
1-③苦情の内容や対応の経過、検討結果について、必要に応じて情報開示できるよう、透明性の高い対応をします。	苦情の内容については所定の用紙にまとめ、苦情解決第三者委員会へも報告しました。委員会でいただいたご意見を活かし、より良い対応やサービスを工夫しました。求めがあった場合には当事者へも開示できる内容で報告書を作成しました。	実施できました。	次年度も継続します

2021年度 ボワ・コンサール　年間総括

1．支援部門

【ボワ・コンサール】

（1）　目標
①一人ひとりが安心した楽しい時間を過ごし、好きな遊びや興味の幅が拡がるように支援します。成功体験を増やし、自信を持って行動できることを増やします。
②ご家庭・学校・関係機関との連携を図ります。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1　一人ひとりの障がい特性や発達、性格を理解し、個人に合わせた適切な対応をします。	「短く伝える」「視覚的に伝える」など分かりやすい情報の伝え方を工夫しました。言葉の影響を受けやすい児童に対しては、なるべく言葉を減らし、指さしや具体的な動作でやるべきことや状況を伝え、行動しやすい環境を整えました。また、玩具カードや文字盤の使用、言葉やジャスチャーなど、要求を適切に伝えることができるよう支援しました。怒りや苛立ち、興奮など不適切な方法での表現に対しては、なるべく職員の感情を表出させず、淡々とした対応を繰り返し、クールダウンを促しました。いろいろな角度から行動のきっかけや理由について考え、必要な対応を検討、実施しました。	実施できました	引き続き、一人ひとりの障がい特性に合わせた支援を工夫します。行動のきっかけや原因についても丁寧に分析し、必要な対応を検討します。対応については、全体で統一した対応を目指します。
①-2　安心できる環境の中で、好きな遊びや得意な遊びに取り組み、楽しい時間を過ごせるようにします	「好き、嫌い」「得意、苦手」など個人の好みを把握しながら玩具や公園を選定するなど、遊びやすい環境を整えました。遊びの様子をしっかりと観察し「なぜ、その遊びが好きなのか？/苦手なのか？」ということを考えながら「楽しむこと」「チャレンジすること」「合わせること」など多くのことが経験できるような支援を工夫しました。遊びの中で得られる達成感や満足感を大切にし、その気持ちに共感する（共感される）ことを多く経験できるよう支援しました。	実施できました	引き続き、遊びや活動の様子を丁寧に見守り、行動の理由を探ります。
①-3　クッキング、季節の制作を年間のスケジュールで計画的に行います。活動の中で役割や順番を楽しく経験し「できた」「楽しかった」という達成感を得られるようにします。	年間のスケジュールに沿って、クッキングや季節の制作を実施しました。継続的に取り組む中で「一人でできること」や「がんばれること」など児童の持っている力を把握し『手を加えすぎない支援』を大切にしました。また、くじ引きで役割を分担し、与えられた役割に責任を感じ、楽しく果たすことも経験できるよう支援しました。新型コロナウイルス感染予防のため、活動にやや制限はありましたが、感染予防に配慮しつつ昼食作り（カレー）などを楽しみました。	実施できました	引き続き、分かりやすく情報を伝えることで「自分でできること」を大切にします。感染症予防に努めつつ、安全に楽しめる活動を工夫します。

①－４　玩具遊びやおやつなど興味のあることを通して『自分で選ぶ』『自分で決める』ことを楽しく経験します。日常の中で、納得して行動できることを増やします。	玩具カードを使って玩具を選ぶことや、工作で好きな色や好きなパーツを選ぶこと、カゴの中から好きなおやつを決まった数だけ選ぶことなど、遊びや生活の中で『自分で選ぶ』ことを大切にしました。自分の選択を他者から認められ自信を持てることや、自分で決められることで納得できることを経験できるよう支援しました。	実施できました	引き続き、自己選択、自己決定の機会を多く作り、主体的に取り組めることを大切にします。
②－１　連絡帳や電話連絡でご家庭との連携を図ります。	日々の様子や連絡事項など、連絡帳やメールを通してご家庭とやりとりしました。必要に応じて電話連絡を行い、細かい様子について直接お伝えすることを大切にしました。希望を確認して行った個別面談では、ご家庭での様子、コンサールでの様子を保護者と共有し、支援に活かしました。また、児童の様子や進学についての相談や情報提供など、話しやすい雰囲気をつくり、児童の成長について一緒に考えることを大切にしました。	実施できました	連絡帳、メール、電話連絡など様々なツールを活用し、ご家庭とのやり取りを丁寧に行います。日常の気づきや悩みについて、相互に話をしやすい雰囲気をつくります。
②－２　学校と連携した支援を行います。	学校お迎え時に、学校での様子について申し送りを受け、同時にコンサールでの様子を伝えました。学校での支援方法についても確認し、できるだけ統一した支援ができるようにしました。学校や相談支援事業所主催の児童のケース会議に参加し、学校、他のデイサービスとの情報共有や適切な対応について検討しました。学校や地域と連携をとりながら統一した支援をすることで、課題とされる行動が落ち着くなど、成果がみられました。	実施できました	引き続き、学校や他事業所での様子についても話ができる機会を作り、地域全体で統一した支援ができることを目指します。
②－３　関係機関との連絡会や支援会議等に参加し、地域の情報を積極的に集めます。	支援計画の立案や評価を行う時期に、相談支援事業所の方から連絡をいただき、コンサールでの様子を伝えることの他に、ご家庭の状況や他事業所での様子についても一部知ることができました。また、大学の保育実習の受け入れを積極的に行い、保育内容や支援、事業所の目指すものなどについて広く伝えることができました。	実施できました	地域で行われる会議には積極的に参加し、情報提供、情報収集ができるようにします。得られた情報を事業所運営や支援に活かします。

2021年度 ボワ・フルール　年間総括

1．支援部門

【ボワ・フルール】

（1）　目標
①保育環境を整備し、児童の遊びが充実できるようにします。個別に応じた対応をしながら、安心して活動できる環境を作ります。
②ご家庭や学校、関連機関との連携を図ります。

（2）計画	実施状況	評価	今後の課題
（1）－①障がい特性や発達段階を理解し、一人ひとりにあった適切な支援をします。	支援会議や毎日の打ち合わせにて児童の様子、支援方法の共有や検討を行い、統一した支援に繋げました。児童の興味があることや苦手なことなどについても職員間で共有し、無理なく挑戦できる環境を整えました。発作時の対処や食事介助の方法については勉強会を行い、安全で適切な対応ができるように努めました。児童の移籍に関しては、移籍前の利用や個別支援計画などで情報を共有しながら引き継ぎを行い、移籍児童が安心して過ごせる環境を整えました。	実施できました	一人ひとりの障がい特性や性格、好きな遊び等を全職員が共有し安心、安全に楽しく過ごせるようにします。適宜、個別支援マニュアルも見直しを行いながら有効に活用していきます。今後も、移籍対象の児童が安心して楽しく過ごせる環境を整えます。必要に応じて、学習会を設定し支援の質向上を目指します。
（1）－②季節の行事に合わせた制作やクッキングを設定して楽しく活動できるようにします。また、児童が主体となり相談しながらやりたいことを決定し、活動に取り入れていきます。自分たちで活動を決めることで楽しみや達成感を味わえるようにします。	年間計画に沿って、季節の制作やクッキングを実施しました。制作は、季節を意識できる内容や木などの自然物を取り入れながら日本の風習も感じられるようにしました。児童が「どこまでできるか」を見極めながら適切に取り組める環境を整えました。 おやつやクッキングのメニューを自分たちで決めることで主体的に楽しむことができました。夏休み中には感染予防に努めながら昼食（冷やしうどん、カレー）作りや夏祭りなど普段できない活動を設定し楽しみました。	実施できました	引き続き、クッキングのメニューや行事の内容など皆で話し合って決める機会を大切にします。児童が主体的に考え、楽しみを持って活動や行事に参加できるように工夫します。
（1）－③安心安全に活動できる環境整備として、施設設備、絵本や玩具の整理整頓清掃、消毒を行い衛生的な環境を設定します。	玩具、扉、窓、送迎車の車内などの清掃、消毒、換気を徹底し、施設の美化衛生や感染リスクの軽減に努めました。遊具は定期的に点検し安全に使用できるようにしました。食事、おやつを食べる時の距離や座席に配慮し感染防止に努めました。	実施できました	引き続き、整理整頓、清掃、消毒、換気等を徹底し安心、安全に活動できる環境を整えます。
（2）－①連絡帳や電話連絡でご家庭との連携を図ります。	活動の様子は連絡帳に記載しました。保護者の不安や、気になっていることなどの記載がある時には、適切な返答ができるように努めました。児童の様子で気になることがある場合は、保護者へ対応方法を確認したり、情報交換を行いフルールでの支援に活かしました。個別面談では、学校や自宅での様子や他事業所での様子を伺い、フルールの様子だけでは分からないことも共有することができました。	実施できました	引き続き、活動の様子をご家庭に分かりやすく伝えます。連絡帳を通して様子を確認し、より良い支援に活かします。引き続き、個別面談を通して児童への理解を深めていきます。

（２）－②学校と連携した支援を行います。	学校お迎え時に当日の様子について引継ぎを受け、必要に応じてフルールの様子も伝え情報共有を図りました。学校での支援方法を確認し、できる限り統一した支援を目指しました。依頼があった場合はケース検討会議に参加し、学校、他事業所との連携に努めました。	実施できました	引き続き、児童の様子に合わせて、学校での関わり方や取り組み方を確認します。必要に応じて、施設見学などの受け入れを行い連携に努めます。
（２）－③関係機関との連絡会や支援会議等に参加し、地域の情報を積極的に集めます。	関係機関から、モニタリング評価や支援計画立案のため、利用児童の様子や、活動について問い合わせをいただくことがありました。事業所での様子をお伝えし共有することができました。必要に応じて支援会議に参加し学校、家庭と情報を共有し統一した支援ができるようにしました。	実施できました	関係機関からの問い合わせ等には今後も丁寧に対応し、共通認識を持って支援していきます。必要に応じて、連絡会や会議にも参加し、統一した支援ができるようにします。

２０２１年度　ボワ・エール　年間総括

１．支援部門

【ボワ・エール】

（１）　目標
①一人ひとりが、安心して楽しく過ごせるように支援します。
②社会性を育む支援を行います。
③ご家庭・学校・関連機関との連携を図ります。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①-１　障がい特性や発達段階を理解した上で、一人ひとりの気持ちに寄り添った支援を行います。	移籍児童については、前事業所からの引継ぎを受け、個々に合わせた統一した支援を継続しました。 支援前に職員間で一日の活動の内容、支援での留意点や個人に関する振り返りを行い、情報共有をしました。また、個人の状況を全体で共有しながら、児童が安定して活動できるよう支援や対応方法について検討、振り返りを行いました。 困難事例に関しては、会議等で対応方法を検討、検証を行いながら統一した支援ができるようにしました。	実施できました	支援前に打ち合わせを行い、児童の課題やその時の状況に合わせて対応方法を検討して統一した支援ができるようにします。 eラーニングなどを活用し、支援の基礎などを定期的に学習しながら質の向上を図ります。
①-２　活動の中で、体を動かす活動や、のんびりリラックスした気持ちで過ごせること、集団で活動することをバランスよく設定できるようにします。満足感や達成感を感じられるような活動や安全な環境を設定します。	集団活動、個別活動をバランスよく提供しました。制作、クッキングなどの行事を設定し、季節を感じたり、みんなで協力しながら取り組むことを大切にしました。 年間予定に合わせて活動を設定しましたが、コロナウイルス感染症の拡大により一部活動を制限する状況がありましたが、制限された中でも、児童が楽しく過ごせるよう工夫して取り組むことができました。	実施できました	医ケア児の受け入れに関しては、看護師体制の不足により受け入れできない状況が起きています医ケア児の受け入れ態勢を整えるところが課題になっています。
①-３　提供するおやつの在り方を再検討し、より良いおやつ提供ができるようにします。	毎月おやつ会議を設定し、喫食状況の確認をしました。栄養部門とエールそれぞれでおやつメニューを提案したり提供のあり方を検討しました。 クッキングについては、感染予防に留意して設定しました。	実施できました	提供のおやつは継続し、エールからも児童の好みを踏まえたメニューの提案をしながら、調理部門と連携して負担になりすぎずにバリエーション豊かな提供ができるようにします。 クッキングは感染防止に留意し、状況に応じて個別調理などにしながら継続していきます。
②-１　生活年齢を意識した関わりを行い、集団生活でのルールなどを理解・意識して活動できるように支援します。	虐待防止チェックリストの結果を踏まえて、児童の呼称についてや荷物の取り扱いなどについて、生活年齢を意識した関わりをすることを会議等で検討しました。 児童自身ができることを増やせるように、支援者が必要な支援ができるよう日々の打ち合わせなどで対応についても確認しました。	実施できました	職員自身が経験が長くなると呼び方が愛称にあることがあるため、生活年齢が意識できるように定期的に対応を確認します。 すべて大人がやるのではなく、児童の力を引き出す対応を意識していきます。

②-２　困ったこと、不安なことなどの自分の気持ちを周囲に伝え、解決できた・対処できたことの経験を積み重ね、対処する力や気持ちをコントロールする力を身に着けていけるようにします。	活動で内容を決める時や、児童同士で相談し合う時に、職員がすべて先回りをして解決に向けて整えるのではなく、児童の意思を確認しながら「どのようにしらよいか」を考えられるよう繰り返し支援しました。 行動の問題があった時は、その理由を確認し、児童が自身の行動を振り返り、正しい行動を促すようにしました。	実施できました	学校の行事や年度の変わり目など様々な要因で気持ちの波が生じることもあるため、行動の背景を含めて適切な対応をその都度検討して対応できるようにしていきます。
③-１　連絡帳や電話連絡を通し、ご家庭との連携を図ります。	連絡帳の書式を変更しました。これまでより簡素化された形式になりましたが、必要な状況は連絡帳に記載し、その他の状況に関しては、必要に応じて電話やメールで細かくお知らせするようにしました。 個別面談を実施し、保護者と直接意見交換をする時間を設定しました。また、保護者からの問い合わせや相談を受け、その都度エールでの状況の報告や、説明を行いました。	実施できました	職員体制により、記載内容が限られたりする部分に関しては、メールや電話、送迎時の引き渡しなどで丁寧にお伝えできるようにします。
③－２　学校との連携を図ります。	学校送迎時、体調面や情緒面等の確認を行いました。感染症防止対策により、学校での引き渡し方法が変更になり学校の対応に合わせながら引継ぎを行いました。 学校公開については、感染症防止の観点により案内がなかったため参加することができませんでした。	実施できました	感染予防対策として今までのように時間を掛けた対応が学校側でもできない状況はありますが、その日の体調や情緒面については確認し、活動で配慮した対応ができ料にします。
③-３　関係機関との連絡会や支援会議等には積極的に参加し、意見交換を行います。	相談支援事業所、学校、関係機関による支援会議に参加し、児童個人の状況について、事業所ごとの様子を確認し情報共有することができました。現状を確認しながら、将来に向けた支援の方針を全体で確認することができました。	実施できました	支援会議には引き続き参加し、他事業所での様子を確認し職員間で共有できるようにします。